人類補完の鍵となったEVA

汎用人型決戦兵器
人造人間 エヴァンゲリオン
初号機

NERV

EVA-01
TEST TYPE

使徒の持つ生命の実と、ヒトの持つ知恵の実。
その両方を手に入れたEVA初号機は、神に等しき存在となった
（冬月コウゾウ）

サードインパクトの依代となりしEVA

EVAの中でも謎多き初号機。アダムのコピーとされるEVAだが、ゼーレの言によると初号機は人類の始祖とされるリリスから造られた「分身」であるという。使徒に対する攻撃的な"暴走"現象も、アダムと相容れないリリスが原因のひとつかもしれない。

ゼーレにとって初号機はリリスの予備であり、結果的にリリスの代わりとして人類補完の中心を担うこととなる。一方、ゼーレとは異なる人類補完を目論んでいた碇ゲンドウにとっても、他のEVAとは一線を画し、非常時における最優先の機体確保が指示されている。これは、初号機が彼の計画に必須であるだけではなく、初号機接触実験中に姿を消した彼の妻、碇ユイとも無関係ではないだろう。

DATA

機体:EVA-01 TEST TYPE
初号機

搭乗者:3rd Children
碇シンジ

主武装:WEAPON
パレットライフル
ハンドガン
プログレッシブ・ナイフ 等

機体配色:COLOR
紫 緑
橙 黒

十字の光が分かれるように初号機の翼へと変化。激昂したサードチルドレンに呼応するように、初号機は自ら拘束具を弾き飛ばす。

動きを止めた初号機を中心に、量産機はアンチA.T.フィールドを展開。その結果、サードインパクトというべき現象が誘発される。

サードインパクトの発生後、「人類の生きた証」である初号機は、まるで方舟のようにロンギヌスの槍と共に宇宙空間を漂う。

関連事項

- 人類補完計画
- 碇ユイ
- 碇シンジ
- アダム

群体である人類を全ち単体に進化させる計画とされるが、詳細は不明。発動の鍵はリリスによる人類のLCLと化した。

©GAINAX・カラー/Project Eva ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会
Illustration by (Yoshiyuki Tomino)

初号機と人類補完計画

対使徒兵器であるEVAの、もうひとつの(もしくは真の)役割が人類補完計画遂行を担うことであった。本来ならばリリスを中心に行う儀式であったようだが、代わりとして初号機が依代となり実行されている。なお、結果的になのか計画通りなのかは不明だが、ロンギヌスの槍と合一して生命の樹となった初号機はリリスに取り込まれ、サードチルドレンの意志に補完の行く末が委ねられたようだが、この現象自体不明瞭である。

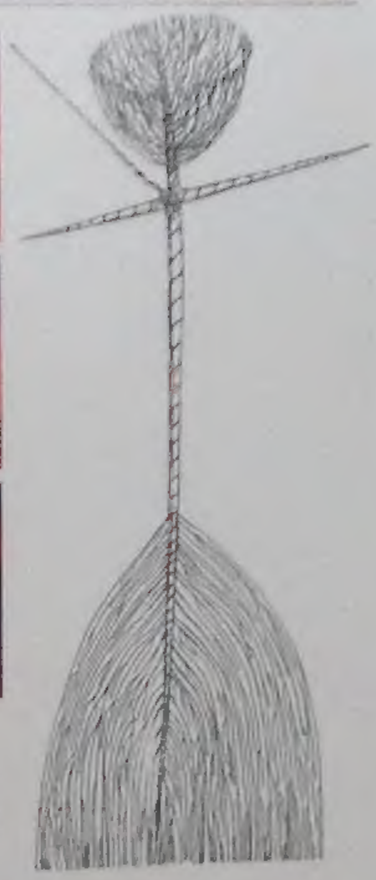
初号機を依代に行われた人類補完の儀式だが、アダムを取り込んだリリスも加わって補完が行われた。

ロンギヌスの槍と初号機

A.T.フィールド貫通能力を有すロンギヌスの槍。初号機と合一して生命の樹へと変化した。なお、槍に意志があるかのごとく初号機の変化に反応し、月から地球へ自力で帰還している。

侵食するかのように初号機のコアに入るロンギヌスの槍。EVAと槍の合一によって生命の樹を誕生させることが、補完の第一歩であったようだ。

12枚の翼を生やした初号機は、ロンギヌスの槍を操り、槍から放った同心円状の光の波でロンギヌスの槍のレプリカを次々と消滅させていく。



➡ロンギヌスの槍と一体化した初号機

初号機の使用兵器 —特殊火器—

ヤシマ作戦において初号機が用いた特殊な火器は、第5使徒ラミエルのコアをA.T.フィールドごと撃ち抜くためだけに用意された。それは長々距離狙撃用のポジトロンライフルであり、戦略自衛隊つくば技術研究本部の試作自走陽電子砲を元に改良したものである。砲身は1億8千万kWものエネルギーに耐えうる構造で、水冷パイプが接続された砲身冷却システムを持つ。砲身の先端部にあるのは対応粒子接着器。なお、1射ごとにヒューズを再装填する仕組みとなっている。

1億8千万kWの電力を収束するために大量の変圧器＆開閉装置が必要であり、同時に加熱した機器の強制冷却も行われる。

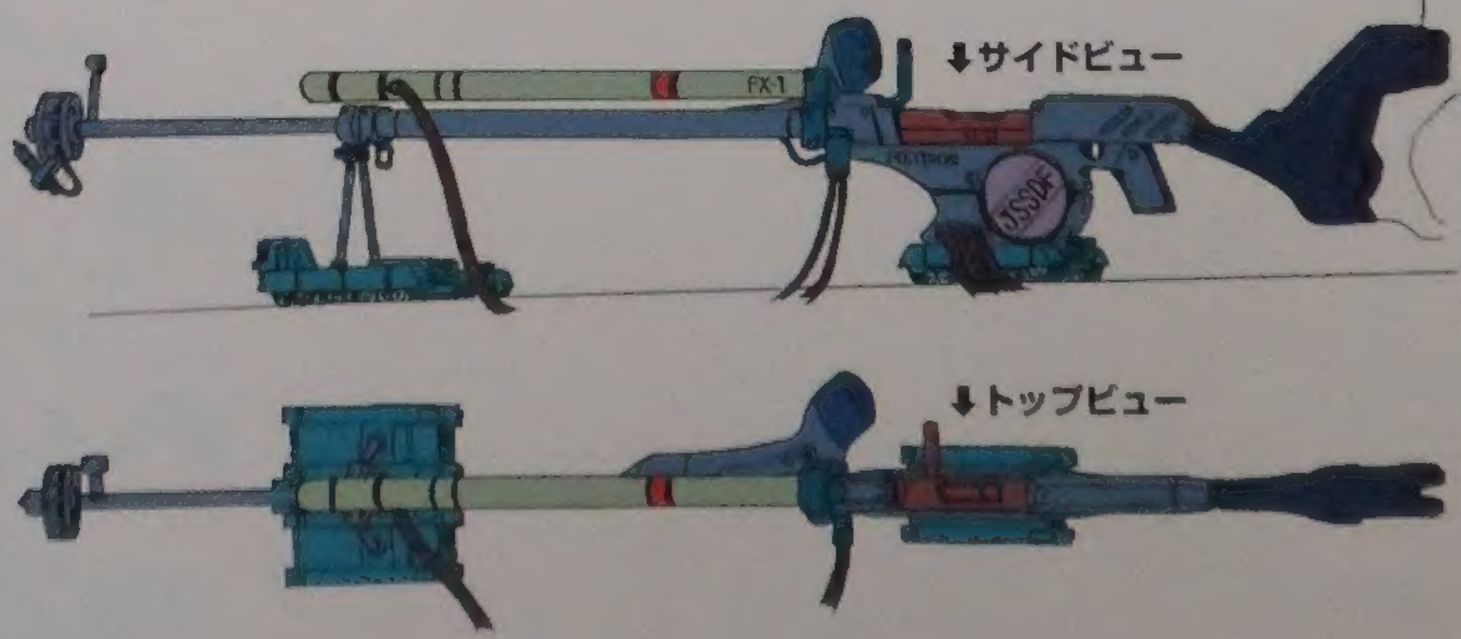
日本全国から集めた膨大な電力に耐えうるケーブルは存在しないため、1/1000秒のパルスに変換して受信部へ送信される仕組み。

⬆冷却器と変圧器＆開閉装置

ポジトロンスナイパーライフル（EVA専用改造陽電子砲）

⬆ヒューズと排出口

⬆電光受信機／照準用照尺



⬇サイドビュー

⬇トップビュー

⬅射撃時

⬅V型マズルフラッシュ

Illustration by Youichi Fukano(M.I.C.)

深い傷を
負いながら

葛城 ミサト
MISATO KATSURAGI

運命に
抗した女性

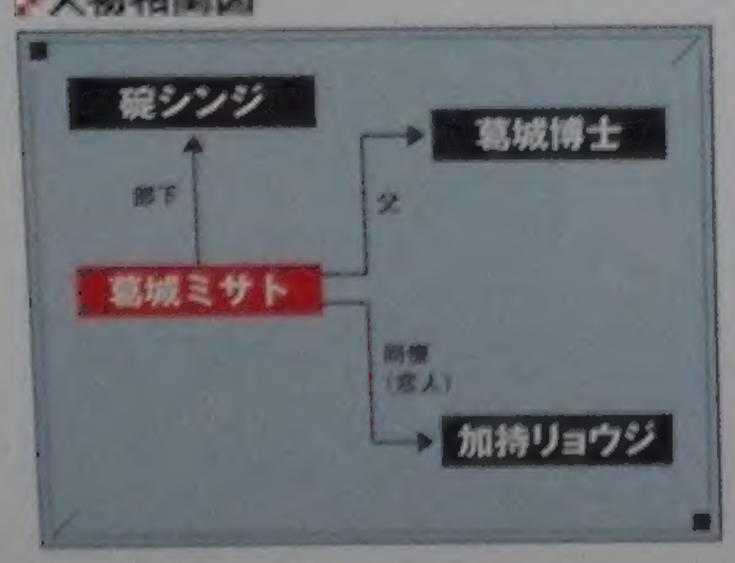
個人情報

名前	葛城ミサト
年齢	29歳
国籍	日本
生年月日	A.D.1986/12/08
血液型	A型
所属	NERV/戦術作戦部作戦局第一課　課長

EVA、使徒、そして父への想い――ミサトの原動力となる想いは、セカンドインパクトとともに生まれたと言えよう。碇ゲンドウや赤木リツコとは異なり、父を奪った使徒自体に特別な思い入れを抱くミサトがゲヒルンに入所したのは、ある意味必然であった。人類補完計画という求心力のある目的がなくとも、ミサトは父の敵を討つという目的のもとで使徒殲滅に執着してきた。そのためか、シンジたちパイロットに成功率が低い作戦を課すなど、使命感が強すぎる面も表れている。また、当初はNERV作戦部長としての仕事に追われていたミサトだったが、同僚と思っていたリツコへの疑念を発端にNERVやゲンドウへの不信感が生まれたようだ。使徒戦の終盤になるにつれてその疑いは強くなり、彼女の目的は徐々に、セカンドインパクトと人類補完計画の真相を知ることへとシフトしている。時には加持やリツコへも銃を向け、味方の少ない状態で彼女は自らの信念に従って独自の行動を取り続けた。

一方、NERV内での対人関係においては、ミサトは自分の心の拠り所となる場所を探していたようにも見える。他人との接触を厭んじて心を閉ざす碇シンジと失語症時代の自分、父との複雑な関係――共通する背景が多く内にこもるシンジを叱咤することで、ミサトは自らを奮い立たせていたようだ。また、加持に父の面影を見出し、失った父の身代わりとする心情も伺え、周囲の人間関係の中で、セカンドインパクトの体験による心の穴を埋めたいという無意識の目的を抱いていたとも思われる。

人物相関図



関連事項

- 碇シンジ
- 葛城博士
- 加持リョウジ
- 初期EVA
- セカンドインパクト

EVA初号機の搭乗候補者であるサードチルドレン。他人との接触を拒絶する一方で人なつっこい繊細な感性を持つ。

表情／私服

→特に司令室においては、意志の強そうな表情を浮かべることが多いミサト。プライベートのくだけた姿とはまるで別人のような雰囲気を漂わせている。

EVAシリーズの急な量産態勢にますます疑念を深めるミサト。EVAに何か別の目的があることには気づいたようだ。

←強気なイメージに反し、本来のミサトは脆い部分を人並み以上に抱えこんでいる。その戸惑いを含んだ視線の先にあるものを知る人間は少ない。

←疲労感すら見て取れる、うつむき加減のミサト。寄りかかれる場所の少ない彼女は、NERVにいながらひとりで悩むことも多かったのかもしれない。

使徒を倒すにつれ、ミサトにとって予期せぬ事態が次々と起こる。彼女はごく少数の協力を得つつ、真相に肉薄していった。

↑友人の結婚式の際に着ていた、ジャケットにペアトップのワンピースというタイトなシルエットの服。ミサトは有能でクールな女性といった雰囲気の服を好んで着用しているが、そのようなイメージを主張することで、自分を強く見せようとする心理も見え隠れしている。

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA新劇の原画を使用

葛城ミサトが求めたもの

←露出が高めのノースリーブタートルにサングラスを合わせ、健康的な色気を感じさせる姿。かつては、どちらかというと派手好みだったようだ。

→ぴったりとしたトップスにミニスカートという活動的な私服。生足とサンダルがスタイルの良さを強調している。大学生時代には鮮やかなピンクなど、性格と同じくはっきりとした色を好んでいたようだ。

←失語症となったミサトは長期間隔離施設に閉じこもっていた。のちに回復した彼女と友人になったリツコは、「その間の時間を取り戻すかのように彼女はよく喋る子」と語っている。

南極大陸で発生した未曾有の大災厄――セカンドインパクトを現地で目撃し、肉親を亡くしたという過去を持つミサトにとって、使徒やEVAに対する思いの中には個人的な感情が多分に含まれていると考えられる。NERVの一職員として「使徒対人類」という構図を捉えつつも、その使徒を倒すことが父の仇を討つことにも繋がるため、絶対に使徒を殲滅しなければならないという決意が行動の端々から見てとれる。NERVの中心にありながらゼーレや人類補完計画の目的を知らずにいた彼女は、純粋にEVAを指揮し、勝つことに生きる意味を見出していたのだろう。

また、自分がNERVの実体を知らないということに徐々に気づき始めてからは、独自に内部調査を開始し、人類補完計画の真相に迫ろうと試みている。その過程で加持という自身にとっての絶対的な支えを失ったものの、その助けによってミサトはEVAや人類補完計画の中枢に迫った。しかし、結果的にその全貌を知ることは適わず、NERV職員として、使徒を倒すEVAと初号機専属操縦者である碇シンジのためにその人生を捧げるかたちとなった。

加持の情報を元に友人であるリツコを追い詰め、ミサトはレイにはスペアがいくつも存在するという衝撃的な真実の一端を突き止めた。

セカンドインパクトが与えた影響

セカンドインパクトの際に負った傷は、消えることなくミサトの胸に残っている。おそらくは心の傷も癒えることはないのだろう。

父が代表を務めた南極調査隊に同行していたミサトは、セカンドインパクトの現場に居合わせながら、唯一生還を果たした存在である。未曾有の大災害と光の巨人を目撃したこと、そして父を失ったことが彼女を失語症に陥らせ、幼少のミサトの心に大きな傷を残した。そのショックから立ち直ることはできたものの、父を殺した使徒という存在を激しく憎み、結果として使徒を倒す存在であるEVAに執心していったという点において、セカンドインパクトは彼女の人生を大きく左右する出来事だったと言えるだろう。時に無謀な行動を取る強すぎる使命感は、この強い感情に裏打ちされているが故とも考えられる。

父との別離が与えた影響

失語症時代と同じようにうずくまり、暗い場所に怯えるミサト。彼女の中でセカンドインパクトに関わる出来事は明らかにトラウマとなっている。

全身傷だらけで血まみれになりながらも、必死に娘を抱きかかえていたミサトの父。カプセルの扉を閉めた瞬間、彼は力尽きて倒れ込んでしまった。

幼少時のミサトと父の関係は良好だったとは言えず、ミサトは研究にばかり没頭する父を嫌っていたようだ。そんな中でなぜ父の調査隊に彼女が同行したのかは定かではないが、葛城調査隊がセカンドインパクトにおける何らかの発端を作ったことは類推できる。爆発が起こる直前、ミサトの父はひとりしか入るスペースのない脱出カプセルにミサトを押し込み、自分のつけていた十字架のペンダントを託して扉を閉めた。この出来事以来ミサトは肌身離さずその形見のペンダントを持っており、かつて嫌っていた頃の反動のように父への想いを強め、その仇を討つ生き方を選択することとなった。

人類補完計画進行時の行動

白兵戦の手練が相手であっても、全く臆することなく突撃するミサト。その気迫が勝ったのか、彼女は瞬く間に戦自隊員を殲滅した。

消極的な態度のシンジとは対照的に、守るものが側にあるという状態により、ミサトの強さと激しさは増しているようにも見てとれる。

人類補完計画の発動前、戦略自衛隊の攻撃を受けたNERVはかつてないほどの混乱状態に陥っていた。ミサトは適格者たちを守るために各EVAへ搭乗させるよう指示を出すが、そこでシンジが階段の下で何もせずうずくまっているという事実を知る。救出に向かったミサトは、彼が戦自に発見され銃殺される寸前のところを、捨て身の攻撃によって守り抜いた。ミサトは人類補完計画の遂行という目的からは離れた立場であったが、この時は適格者とEVAを守ること、特にシンジを守ることを最優先としていたようだ。その後もシンジを必死に励ましながら初号機のある場所を目指し、自分の使命を貫いている。

加持リョウジとの関係

ミサトの支えであった加持。彼を失った際の深い悲しみようを見る限り、彼女は想像以上に加持に依存していたようである。

真実を知り過ぎた加持が殺害され、ミサトは精神的な支えを失ったことで一時行動不可能なまでに落ち込んでいた。しかし、加持から渡されたカプセル内のマイクロチップが、加持の集めた真実をミサトにもたらすこととなる。この情報を渡すために加持はいくつもの手段を用意していたと考えられることから、彼は自分の身が危険に晒されていることを十分理解していたのだろう。最も危険な橋は自身で渡り、残りをミサトに託すという行動からはミサトへの深い愛情が窺える。チップの存在で加持の思いを汲んだミサトは無事に再起、加持の心を受け継いでさらなる真実へと近づくこととなった。

碇シンジとの関係

留守番電話のメッセージを聞き、加持の死を直感したミサト。いまだ心の壁をとり切れないシンジは、号泣する彼女に対し声をかけることをためらった。

ふたりの関係で唯一確信が持てるのは、心の奥底で父への強い感情やコンプレックスを抱えているという、共通した境遇を持つ点だけである。

同居を始めた当初は保護者と被保護者という関係だったシンジとミサト。しかし、EVAや使徒と関わり合う中で心に傷を負い続けてきたふたりは、互いの心の隙間を埋め合うことを無意識に求め出していたようだ。レイの自爆によってシンジが精神不安定に陥った時、ミサトはシンジを慰めるような素振りを見せたり、自身の死の間際にシンジにキスをするという行動をとった。少なくともミサトの方は、単なる家族以上の認識を持つようになっていたようだ。ふたりの関係には家族、上司と部下の他にも、友人あるいは恋人といった面が加わり、一言では言い表せない複雑なものへ変貌したものと思われる。

最期の瞬間に見たもの

深い傷を負いながら、ミサトは全身全霊でシンジを奮い立たせようとした。シンジとのキスも、再会できないことを確信した故の行動かもしれない。

息絶える寸前、加持に「これでよかったわよね」と問いかけるミサト。最後の気力を振り絞ったミサトの言葉は、シンジの心に届いたのだろうか。

シンジを連れたミサトは、EVA初号機へと続く非常用エレベーターへ到着する寸前、敵に捕捉されて腹部に被弾した。「たいしたことない」という言葉に反し出血がひどく、その傷は致命傷に近かった。そんな彼女を前にしてもEVAに乗ることを拒否し続けるシンジに対し、ミサトは自らの内にあった激しい心情を初めてシンジに吐露する。そして、父の形見である十字架のペンダントを託し、大人のキスと共にシンジを送り出した。その直後、ミサトはエレベーターの前で崩れ落ちたが、人類補完計画を見届けることなく散った彼女の目には、自身の人生のすべてを賭けた少年の姿が焼き付いていたことだろう。

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

Illustration by K2 Shoukai

第17使徒タブリス戦

ゼーレより送り込まれた最後のシ者

TACTICS SHEET

特務機関NERVは、本来、人類補完委員会――つまりゼーレ――が計画する各種プランを実行するための、いわば実働部隊である。しかし、NERVの全権を委任されていた碇ゲンドウは、ロンギヌスの槍の独断使用を含め、ゼーレの思惑と反する行動を繰り返しており、第16使徒アルミサエル戦後の段階において、すでにゼーレとNERVの関係は修復しがたいものとなっていた。ゼーレ側は碇ゲンドウがNERVを私物化していると捉えており、実際、それは当たらずとも遠からずで、碇ゲンドウは独自の見解を持って人類補完計画を推進しつつあったのだ。フィフスチルドレンがNERVへ到着したのは、そんな状況下の出来事であった。

結論から言えば、フィフスチルドレンは第17使徒タブリス――ヒトと同じ姿をもつ最後の使徒であった。使徒はターミナルドグマまで侵入したものの、最終的には初号機により殲滅されたのだが、問題となるのは、この使徒＝フィフスチルドレンの出現タイミング、および彼がゼーレから直接送り込まれたことにある。人類補完計画の発動には、裏死海文書に記されているすべての使徒の殲滅が条件とされており、このプロセスをより早く確実に整える（あるいは人為的にサードインパクトを促す）ため、ゼーレは第17使徒を送り込んできたとされている。このことはゼーレが使徒を作為的に出現させられるとの仮説につながり、さらに突き詰めれば使徒そのものが“人為的”に創られた存在とも捉えることができるのである。ある意味、最後の使徒戦（もしくは全使徒戦）は、ゼーレが仕組んだ“出来レース”だったと言えるかもしれない。ロンギヌスの槍はゼーレによれば人類補完計画に必要不可欠な要素であったらしく、その損失により計画の主導権は、事実上、碇ゲンドウに委ねられていた。それだけに第17使徒戦は、主に人類補完計画の発動に関するイニシアチブを碇司令からゼーレ側へ戻す目論みがあったと推測できる。いずれにせよ第17使徒タブリスをもってすべての使徒は殲滅され、ゼーレの描くシナリオ通り人類補完計画発動へとシフトしていったのである。

関連事項

RELATED MATTERS

- 第17使徒タブリス
- フィフスチルドレン
- ゼーレ
- ターミナルドグマ
- アダム

フィフスチルドレンとしてゼーレからNERVへ送り込まれた第17使徒タブリス。その姿はヒトそのものであった。

ターミナルドグマに設けられた、ペンペンのドア内の空間へと侵入した第17使徒タブリス。使徒とアダムの接触の接触が行われるかと思われたが、襲撃してきた初号機により殲滅され、事なきを得た。なおアダムとされた巨人を見た第17使徒は「リリス」と呼んでいる。

第17使徒タブリス戦

THE SEVENTEENTH ANGEL TABRIS ANNIHILATION BATTLE

タクティクスシート
Tactics Sheet

フィフスチルドレンの行動

最後の使徒としてNERVに送り込まれた第17使徒だが、ゼーレより事前に指示されていたためか、すぐに侵攻は開始せず、本部内で人間として振る舞っている。特筆すべきはサードチルドレンと積極的に接触を行っていたことが挙げられる。

フィフスチルドレンとしてNERV本部に現われた第17使徒ではあるが、興味深いことに初号機パイロットのサードチルドレンと積極的に接触を図っている。第16使徒もファーストチルドレンに精神融合を行おうとしていたことから鑑みるに、第17使徒のサードチルドレンへの接触は、純粋に使徒の興味によるものであった可能性も高く、NERV本部内ではヒトの形を最大限に生かした行動をとり続けている。その後、第17使徒は弐号機を遠隔操作し、セントラルドグマへと侵攻を開始。追撃に出た初号機は弐号機との戦闘を経て、ターミナルドグマ内において第17使徒を捕獲、殲滅にいたっている。

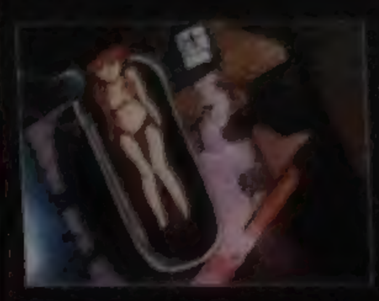
ヒトの形をした第17使徒。この使徒はNERVにてサードチルドレンと積極的に会話を交わした。その具体的な理由は定かではないが、第15、第16使徒に見られた人への接触と同じ行動原理であったとも考えられる。

使徒はターミナルドグマへと進し、ついにアダムの前へとやってきた。しかし、ドグマ侵入に備して待っていた弐号機は、迎撃に出た初号機により撃破。結果として追いつめられた形となったのである。

特記事項

セカンドチルドレンの失踪

フィフスチルドレン到着の1週間前、弐号機とシンクロできなくなったセカンドチルドレンの失踪事件が発生していた。この事件では、NERV本部諜報2課がセカンドチルドレンを完全にロストするという考えられない失態を演じたものの、その発見当日にフィフスチルドレンが、セカンドチルドレンに代わる弐号機パイロットとして到着するタイミングのよさであったため、このロストが作為的であった可能性も示唆されている。なお、第3新東京市の廃墟にて発見されたセカンドチルドレンは、心神喪失状態で肉体的にも衰弱しており、諜報2課の人間の呼びかけにも応じられなかったと記録されている。そのため保護されたセカンドチルドレンは、本部施設内の病院へ即時収容され、完全看護下に置かれることとなった。



失踪後1週間経ってようやく発見されたセカンドチルドレン。完全に心神喪失状態にあった彼女は、廃墟に置かれたバスタブの溜った水に身を沈めていたのであった。

保護されたセカンドチルドレンは、精神的にも肉体的にも極度に衰弱していた。完全看護されることとなったが、EVAパイロットとしては再起不可能と考えられた。

フィフスチルドレン（第17使徒）の行動経緯

TACTICS SHEET

1 サードチルドレンとの接触

NERV本部へと派遣されたフィフスチルドレンは、到着と同時に故意か偶然か、第3新東京市跡のクレーター湖湖岸にいたサードチルドレンと接触。フィフスチルドレンからサードチルドレンに対して積極的に会話によるコミュニケーションを試みている。これに対してサードチルドレンは、とくに不信感などを感じることなく受け答えたとされている。

フィフスチルドレンとサードチルドレンとの最初の接触は、フィフスの本部到着とほぼ同時であった。また、フィフス到着の報告自体は、発令所にも届いていたようである。

2 NERVへの到着

フィフスチルドレンが送られてきた（表向きの）最大の理由は、欠員状態の弐号機パイロットの補填であり、到着早々に各チルドレンとともにシンクロ率のテストが冬月副司令立ち会いで行われた。参考程度の実験と想定されていたが、弐号機のコアの書き換えはまだ完了していないにも関わらず、フィフスチルドレンは極めて高い数値を記録した。

シンクロテストを行っている最中のフィフスチルドレン。最初のテストであるにも関わらず驚異的な数値をマークし、冬月副司令以下関係者一同を驚かせた。

3 ファーストチルドレンとの接触

シンクロテスト終了後、フィフスチルドレンはファーストチルドレンと接触。ここでも多少の会話が交わされていたようだ。この二者の接触は、冬月副司令を通して碇司令に伝えられており、フィフスの行動が逐次詳細にモニタされていたことを伺わせる。また、併行してMAGIによるフィフスの全データ照会が行われたが、にも関わらずその詳細は不明であった。

フィフスチルドレンは、自らの意思でファーストチルドレンへ積極的な接触を試みる。フィフスはファーストに対し、自分の存在と似たものを感じ取っていたとされる。

4 サードチルドレンとの再接触

ファーストチルドレンとの接触後、ふたたびフィフスチルドレンとサードチルドレンとの間で個人的な接触が行なわれている。ただし、これはフィフスが意図したものではなく、サードの方からのアプローチにより行われたものであった。両者はプライベートな時間をともに過ごしたことが記録されている。ここでの会話は、雑談レベルのものであったらしい。

フィフスチルドレンとサードチルドレンの再接触。ふたりの関係は刻々と親密なものとなっており、サードにとって、フィフスの存在は特別なものになりつつあった。

5 ゼーレとの接触

翌日早朝、フィフスチルドレンは単身地上のクレーター湖湖岸へと赴き、周辺の散策を行っている。当初、その行動の真意は定かではなかったが、のちの調査でこの時フィフスがゼーレのメンバーと直接コンタクトを取っていたことが判明。この段階でフィフスは、ゼーレよりセントラルドグマ侵攻の具体的な行動プランを示されたのではないかと推察される。

早朝のクレーター湖にて、ゼーレのモノリスと会話を交わすフィフスチルドレン。しかし、当時の監視モニタには、ゼーレらしき存在はまったく感知されていなかった。

6 弐号機の奪取

フィフスチルドレンが使徒としての活動を開始。ケージ内に収納されていた弐号機をエントリープラグに乗り込むこともなく起動させると、完全に自身のコントロール下に置いた。発令所では弐号機起動のアラートと同時にセントラルドグマに使徒出現反応を検知。発令所はフィフスが使徒であることを確認、装甲隔壁を閉鎖して使徒の侵入阻止に当たった。

エントリープラグ未挿入の弐号機の前に立ったフィフスチルドレンは、その力を発揮して無人の弐号機を遠隔状態で起動。セントラルドグマへの侵攻を開始した。

7 セントラルドグマの降下

装甲隔壁による防御も効果なく、ターミナルドグマへいたるマルボルジェ層第2コキュートスをも突破され、碇司令は初号機によるフィフスチルドレン＝第17使徒の追撃、およびその殲滅を指令。初号機に乗るサードチルドレンは激しく動揺したと言われているが、命令に従い使徒とその支配下にある弐号機の追撃を開始。シャフト内で弐号機との格闘戦となる。

ターミナルドグマを目指す使徒と弐号機に追いついた初号機であったが、使徒に操られた弐号機の妨害に遭い、これを撃退するためやむなく交戦状態となった。

8 ターミナルドグマへの到着

弐号機の妨害により、いわば足止めされてしまった初号機は、目標のターミナルドグマ到達を阻止することは適わず、使徒のヘブンズドア内への侵入をついに許してしまう。それでも、なんとか弐号機を撃退した初号機は、間一髪のところで使徒を捕獲することに成功。そのまま使徒は初号機の手によって殲滅され、事なきを得たのであった。

ヘブンズドア内にまで侵入した第17使徒であったが、どうにか追いついた初号機の手により捕獲。そのまま殲滅された。この時、使徒は一切反撃しなかった。

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA制作委員会

第17使徒タブリス戦

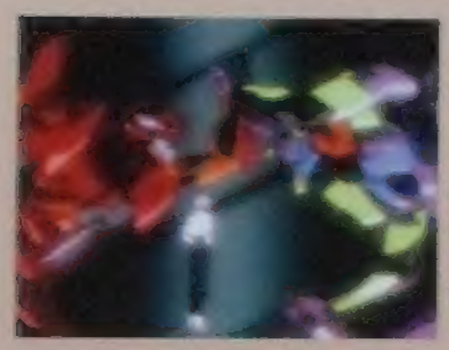
Sheet 27

THE SEVENTEENTH ANGEL TABRIS ANNIHILATION BATTLE

Illustration by (twinbell) Tokiko Yuzawa

ターミナルドグマへの侵入

第17使徒は、ケージ内の弐号機を(いかなる手段を用いてかは不明であるが)遠隔起動させると同時に自身の支配下に置いた。この段階で発令所が弐号機の起動反応と使徒の反応を検知する。使徒は空中浮遊したまま機体外から弐号機を操りつつ、セントラルドグマへと降下を開始すると隔壁を突破、最下層のターミナルドグマを目指した。この使徒の侵攻に対し、碇ゲンドウ司令は初号機による追撃、殲滅を指令。初号機は弐号機に追いつくも、使徒によるヘブンズドア侵入を許してしまう。初号機は弐号機撃退後、使徒を追跡し、右手にてその体躯を確保。その際、使徒は何ら抵抗せず、初号機により握り潰されて、あっけない幕切れとなった。



使徒によって遠隔操作された弐号機は、使徒追撃のために発進した初号機と戦闘を演じることとなった。両機とも武装はプログ・ナイフのみであったため、必然的にナイフを用いた格闘戦となった。

初号機と弐号機との戦いは熾烈を極め、その雌雄はターミナルドグマのヘブンズドア前でようやく決した。このことからも弐号機の戦闘能力は、完全な無人であるとは思えぬほど高いものであったと言えよう。

弐号機を使って初号機を足止めした第17使徒であったが、無抵抗のまま初号機の右手で捕獲された。一説によれば、このあっけない結末は、第17使徒が自ら殲滅されることを望んだためと言われている。

第17使徒は、その侵攻開始直前まで使徒としての反応を完全に隠蔽していた。そのため、発令所では、前触れもなく突如としてセントラルドグマ内に、いきなり使徒が出現したかのように感知されている。

セントラルドグマでの降下経緯

1 使徒、および弐号機降下開始

TACTICS SHEET

ケージにて通常通りに保管されていた弐号機に対し、フィフスチルドレン＝使徒は、外部からこれを起動。弐号機を操りセントラルドグマ内の降下を開始する。発令所は装甲隔壁を緊急閉鎖し侵攻阻止を図るが、弐号機から(使徒の力の影響か)発生する強力なA.T.フィールドにより、隔壁は次々に破壊され、その侵攻を食い止めることはできなかった。

2 初号機の追撃

TACTICS SHEET

使徒のセントラルドグマ内第2コキュートス突破の報告を受けた碇司令は、使徒のターミナルドグマへの侵入の絶対阻止を厳命。初号機による追撃を命じた。余談ながらこの事態はゼーレ側にも伝達されており、キール議長は初号機による使徒殲滅の完遂を望む発言をしたと言われる。碇司令は図らずも、ゼーレの思惑通りの命令を下したのであった。

3 初号機VS弐号機の戦闘

TACTICS SHEET

本部施設内部での戦闘を考慮し、初号機はプログ・ナイフのみの基本装備にて出撃。急速降下し、ターミナルドグマ到達前に使徒との接触に成功した。だが、弐号機からの反撃により、降下しつつプログ・ナイフを用いた格闘戦となる。その最中、使徒は強力なA.T.フィールドを展開。結果、発令所のモニタは、EVAともども使徒をロストしてしまう。

4 ターミナルドグマ到達

TACTICS SHEET

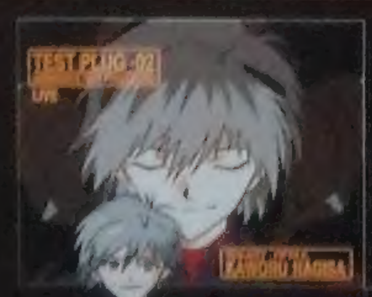
初号機は弐号機と組み合ったまま、ターミナルドグマまで降下した。そして、初号機が弐号機との戦闘に手間取っている隙に、使徒はヘブンズドアへと侵攻。アダムとの接触を果たす。しかし、このアダムと思われていたものは、実はリリスであったため、サードインパクトは発生せずに済んだ。使徒はヘブンズドアで初号機により捕獲、殲滅された。

技術調書

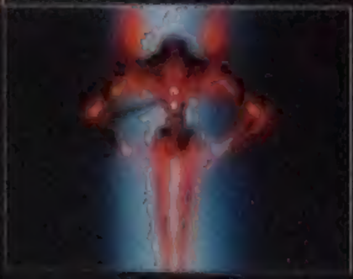
第17使徒タブリスの能力

ヒト型という点が最大の特徴である第17使徒タブリスであるが、まずそれ自体がひとつの能力と言えよう。つまり、使徒としての能力を発揮しなければ、完全に使徒の反応を隠蔽してしまうことが可能なのである。また、使徒の反応を示すことなく、EVAとのシンクロ率を自由にコントロールすることも可能であり、EVAを自在に遠隔操作できることも、この能力の応用であると類推できる。これは第17使徒の出自に依っているらしいが、その詳細は不明。その他、主な能力としては、空中浮遊とA.T.フィールドの発生であるが、そのA.T.フィールドは単なる力場ではなく、"結界"と呼べるような、完全な不可侵領域を造り出せるようだ。

第17使徒のA.T.フィールドは、通常の力場としてだけでなく、外部からのあらゆるセンシングをも遮断するほど強力なレベルのものを張ることもできる。



第17使徒は、自らの意志でEVAとのシンクロ率を自在にコントロールすることが可能である。従って弐号機ともコアの書き換えなしで高いシンクロ率をマークした。そのいわば応用として、EVAを機体外部から起動し操ることができると思われる。



◀第17使徒タブリス

最後の使徒にして、ヒトの形をした使徒である。その外見は、14歳の少年の姿をしており、ファーストチルドレン同様に赤い瞳を持つ。また、人間と同等と思われるメンタリティを有し、当然ながら人語を解する。常にポケットに手を入れているしぐさも特徴である。

特記事項

ターミナルドグマに出現したもうひとつのA.T.フィールド

第17使徒のターミナルドグマ侵入直後、発生源未確認のA.T.フィールドがターミナルドグマ内で検知されている。それは第17使徒が発生させた強力なA.T.フィールドと同等のパワーであり、発令所では一瞬、新たな使徒ではないかとの憶測も流れた。しかし、このA.T.フィールドは第17使徒のA.T.フィールド内へと苦もなく侵入、さらにその後、発令所の探索から逃れている。のちにその発生源はファーストチルドレンであったことが判明しているが、なぜ人間であるはずのファーストが特異な能力を発揮できたのかは追々明らかとなっていく。

第17使徒タブリスと同等の強力なA.T.フィールドを発生させたファーストチルドレン。言い換えれば、使徒と同様の力を有することになるのだが……。

作戦報告

人類補完計画へのシナリオ

人類補完計画発動の条件は、セカンドインパクト前にゼーレが入手、解読したとされる裏死海文書に記された使徒の殲滅である。全ての使徒を殲滅したことにより人類補完計画の発動条件は整い、NERVの存在目的は使徒殲滅から、人類補完計画の実行へと移った。だが意外にも補完計画発動を前にゼーレは情報操作を行い、これを受けて日本政府はNERV本部へ戦略自衛隊を派兵、NERV強制接収に乗り出す。

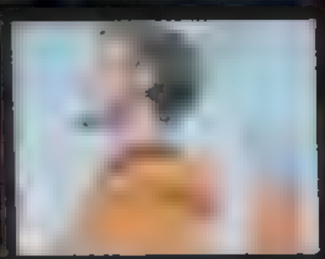
❶全使徒の殲滅

人類補完計画発動に必要とされた条件は、裏死海文書に書かれていた全使徒の殲滅であった。第17使徒の殲滅により、この条件が整えられたことになる。

裏死海文書に記されていた使徒は17体。NERVによって殲滅された使徒は、第3から第17までの15体である。

❷ゼーレとNERVの決裂

第17使徒戦前後からゼーレとNERV(というよりも碇司令)との思惑の不一致は決定的となっていた。これがゼーレをNERV本部強制接収へといたらせることとなる。



初期よりゼーレに対し独自的な行動を取ってきた碇司令であるが、両者の思惑は最終的に対立という形へと向かう。

追加報告

アダムの存在

長い間、第1使徒アダムとは、ターミナルドグマ内に密かに保管されていた白い巨人のことであるとされていた。しかし、第17使徒戦において、アダム=白い巨人の定説は根底から崩されることとなる。ターミナルドグマへと侵攻を果した第17使徒は、その巨人を"アダム"ではなく、"リリス"と呼んだのである。実際、第17使徒はこの事実を知ると巨人との接触を取りやめている(使徒の主目的はアダムとの接触とされている)。しかしNERV(もしくはゼーレ)がこのような偽情報を流布した理由に関しては謎である。

ターミナルドグマ内にて白い巨人に接触しようとした第17使徒は、その存在がアダムでないと気づく。長らくアダムと信じられていた存在は、リリスであったようだ。

碇司令の右手に移植された奇怪な物体。これが本物のアダムの肉体であるとされる。また、ゲルハーデ博士はアダムの隠匿場所(第17使徒)に関係していたとされる。

第17使徒に強制操作された弐号機が初号機に襲いかかる。セントラルドグマのシャフト内で2体のEVAの激しい戦いが始まる。

©GAINAX・カラ /Project Eva ©GAINAX・カラ・EVAN

新世紀年表

NEON GENESIS CHRONOLOGY

第二十九回

Air

LOVE IS DESTRUCTIVE

[illegible]カラル一最後の結晶を確認した碇シンジは暗闇に囲われて[illegible]。そんなとき、ゼーレの指示によってMAGIがハッキングを受ける。実施された赤木リツコにより防壁が成功するも、ゼーレは日本政府に働きかけ、戦略自衛隊によるNERV本部の強制接収を開始する。戦自は総攻撃と併行して潜入部隊が本部内を侵封して行く。自衛はMAGI及びEVAの奪還とその[illegible]の制圧で[illegible]。葛城ミサトは指揮・アスカ・[illegible]発令所をジオフロ[illegible]の制圧に専念させると共に、単身、[illegible]施設に向かう。一[illegible]奪還したアスカは発令所で戦自を撃退する。それに対してゼ[illegible]レは毒ガスを投入する。急激に変化する環境の犠牲となる発令[illegible]。その時、十字の閃光と共に発令所が失われるものだった。

アスカ、覚醒
大人のキス
活動再開

未曾有の大災厄であるセカンドインパクト。日本においては海面の上昇による被害が大きく、特に太平洋沿岸は甚大な被害を受け、
自動車の輸出入において国内屈指の貿易港があった豊橋市もその機能を失い、かろうじて損傷を免れた船舶も一般人、[illegible]

日本国情勢

大災厄により特異な変化を迎えた先進国

ユーラシア大陸の東方に位置する列島をおもな領土とする島国 ― 日本国。37万8千平方kmほどの国土は、北海道、本州、四国、九州の四大島と、南西諸島及び小笠原諸島などからなり、ほぼ北東から南西にかけて連なっている。第二次世界大戦の終戦から程なくして、GDP(国内総生産)で世界2位に位置する経済大国の地位を確立した日本国は、世界経済に強い影響力を持つに至り、国際社会において担う役割は非常に大きなものとなった。

西暦2000年、その日本にさらなる変化をもたらす災厄が発生した。南極大陸において発生した大規模な爆発により、地球規模の被害をもたらした未曾有の大災厄 ― セカンドインパクトである。国土の大部分が山地であり人口は河川下流の平野に集中していた日本国においては、南半球諸国ほどではなかったとはいえ、水没する都市も多く存在した。また、爆弾エネルギーによる地軸の変化の影響で、明確な四季の変化を感じられた全国の気候は常夏へと変貌した。あちこちで飢餓、紛争が発生したため世界情勢は悪化の一途を辿り、その影響は日本国にまで及ぶ結果となったのである。地球規模の騒擾については国連が主体となって世界を一応の安定に導いたが、国連の発言力を強化するための再編成は2002年に米、英、独、露、そして当時は常任理事国入りを果たしていなかった日本国が務めた。さらに、日本国が保有していた戦力 ― 自衛隊は、再編成に伴って作られた国連軍に吸収されることとなる。もともと先進国として重要な立場にあった日本国だが、セカンドインパクト以降、その立場はさらに重要なものへと変化を遂げたのである。

国連の再編成に伴い、人類は有史以来はじめて統一国家に等しい政治形態を手に入れた。しかし、2015年以降、その枠組みの内にいながらも日本のみは特異な立場に身を置くことを余儀なくされた。未知の生命体 ― 使徒が本土に襲来したのである。ちなみに、使徒の襲来に際しては特務機関NERVと国連軍が迎撃に当たったが、日本国独自の戦力である戦略自衛隊が直接的な行動をとった記録は残されていない。新たな脅威に晒され否応なく戦場となったものの、日本国の命運は、自国の軍隊がほとんど及ばない組織に握られていたのである。

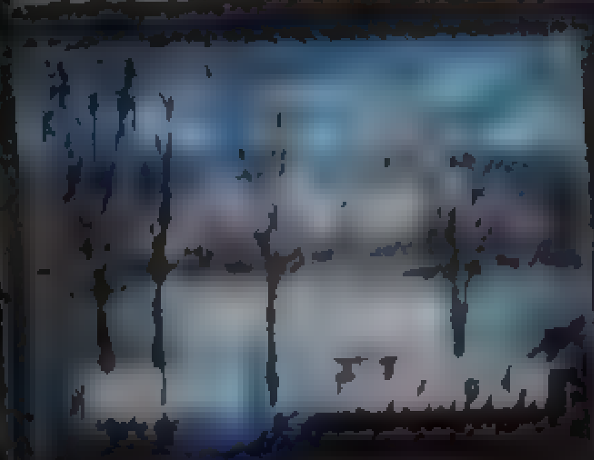
壊滅的な打撃を受けた先進国 その復興と情勢の変化

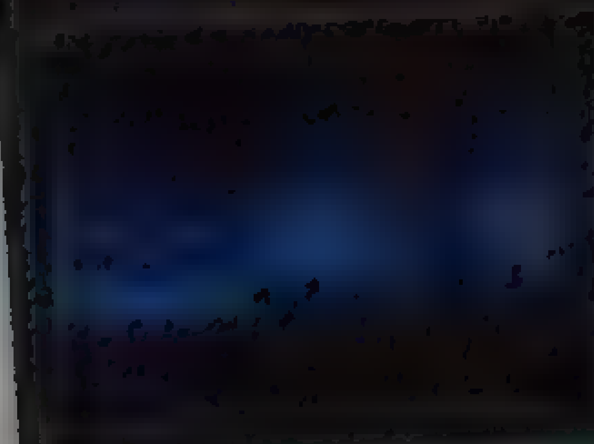
大災害による国土への被害は比較的少なかった日本。しかし、世界中に広がる政情不安は、テロリストによる新型爆弾投下という形で首都を直撃した。国の中枢に壊滅的な打撃を受けた日本は、海面上昇に伴って水没した沿岸地域の復興だけでなく、統治機構を移管する新たな首都の建設を余儀なくされた。また、2003年には東南アジア諸島における軍事衝突が発生し、日本国政府は戦略自衛隊を発足。先進国として国連への協力を強める一方で、独自の戦力を有した。以降、第2新東京市、第3新東京市を建設するなど一応の復興を見た日本だったが、2015年、使徒という新たな脅威に晒された。使徒は基本的に第3新東京市を目指して侵攻するという習性を持っていたため、日本は否応なく対使徒戦略における最重要エリアに位置づけられることとなる。

特記事項

国連関連の施設について

セカンドインパクト以降の国連——その背後にある秘密結社ゼーレが画策裏にとった動きは、非常に迅速なものであった。その活動の一部として挙げられるのが、日本国内における国連関連の施設の建設である。セカンドインパクトから程なくして建設された人工進化研究所を皮切りに、国連はさまざまな施設を建設。最終的には早い段階に首都機能を立ち上げた第2新東京市の建設と、そこに置かれることとなった特務機関NERVの設立に至っている。ちなみに2007年には、国連本部自体も第2新東京市へと移転されている。このことから見てもゼーレがすでに使徒の出現を予測し、その未知の生命体が襲来するであろう日本という土地を最重視していた事実が見える。

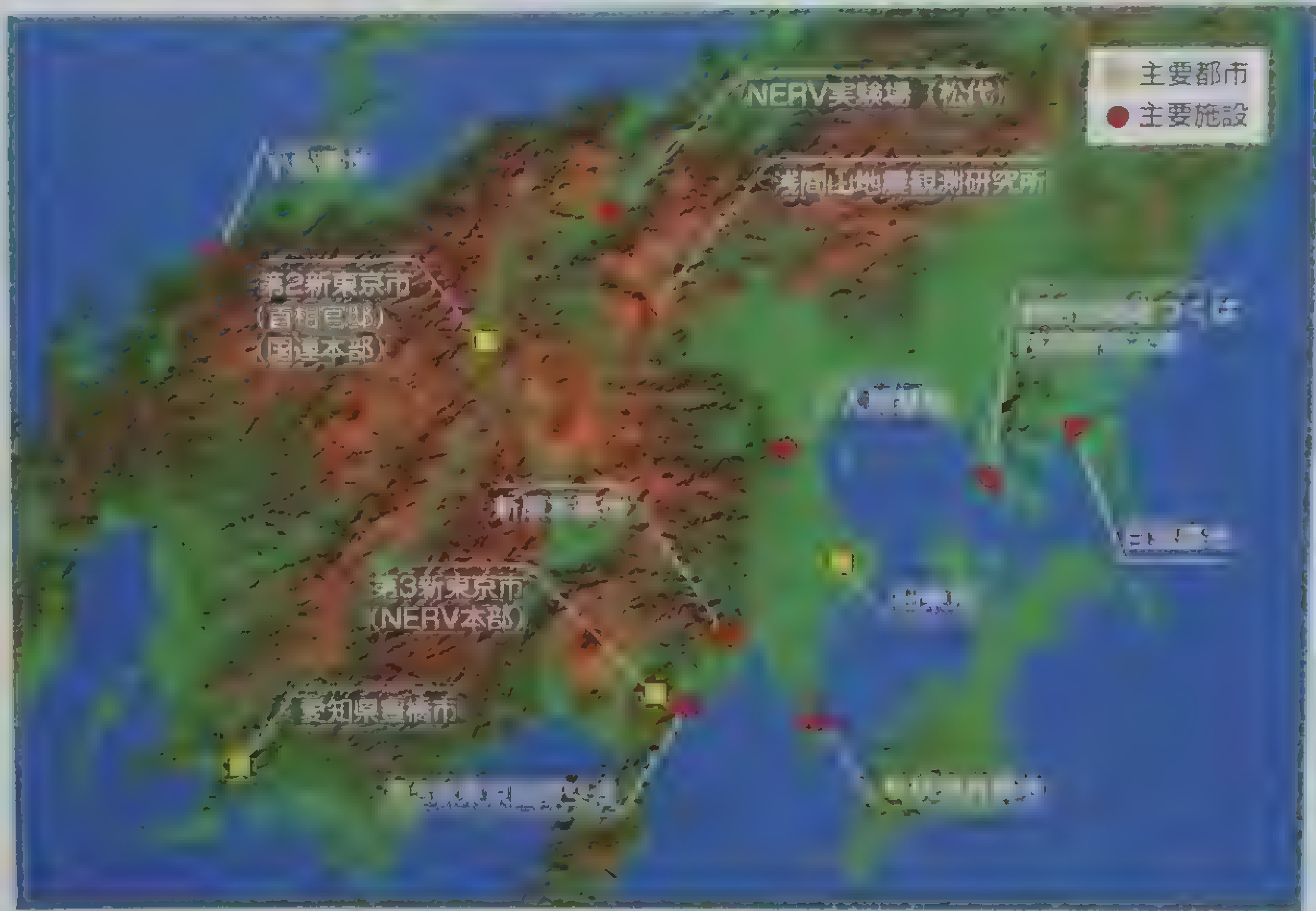




A.D.2015年の日本と新旧の都市、施設の状況

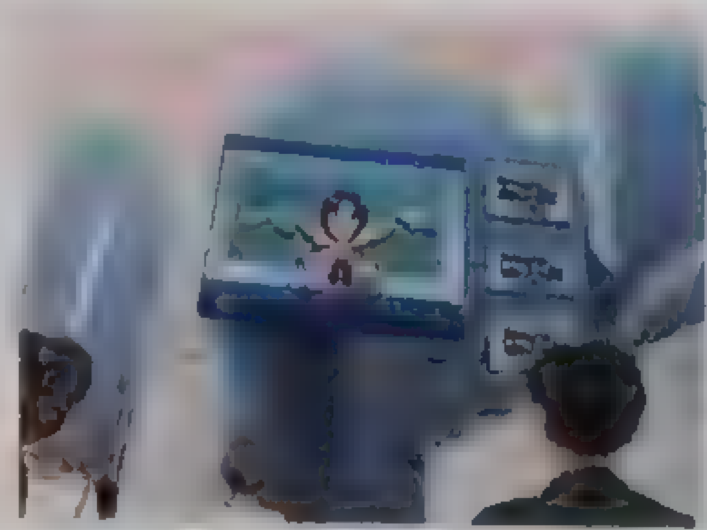
日本においても大災害からの復興は急務であった。しかし、その被害には特異なものもあり、その復興もまた複雑なかたちを取らざるを得なかった

大災害とテロ行為に見舞われ、統治機構を移管する新首都の建設と、世界各国との連携が優先された日本。2015年にはすでに第2新東京市が完成、さらに次期首都である第3新東京市の建設が進んでいた。また、国連軍への編成を踏まえ、自衛隊施設の改修、新設も早急に進められた。一方、多くの地方都市はその急速な復興には組み込まれず、地方行政、あるいは民間レベルでの復興が進められるに留まっていた。



●日本の情勢と主要都市の変遷

壊滅した旧東京の「都市としての復興」を断念した日本国政府は、第2新東京市の建設に着手。2003年には完成に至り、統治機構を移管した。しかし、次期首都とされる第3新東京市については、国連の意向を受ける形で建設が進められた。これは、すでに予測されていた使徒の襲来が世界規模の有事であり、その迎撃をおもな任務とする特務機関NERVという組織の設立が国連により進められていたためと見られている。実際に使徒が襲来した2015年以前から、日本を取り巻く情勢は特異なものであったと言えるだろう。



●国連軍に組み込まれた自衛隊関連の施設

セカンドインパクト以降の国際情勢については、国連が中心となって事態の管理がなされていた。旧東京は壊滅的な状況に陥っていたものの、百里、入間、厚木（新厚木）、小松などの内陸に位置する自衛隊駐屯基地はほぼ無傷で残されており、2002年に組織された国連軍に組み込まれた。また水没した横須賀基地（軍港）なども改修され、太平洋西部の警備拠点として利用された。なお、そういった流れとは別に日本は独自の戦力である戦略自衛隊を組織、技術研究本部などの関連施設の建設も早急に進められていたようだ。

●地方都市と旧東京の復興

日本におけるセカンドインパクトの被害は、その多くが海面の上昇とそれにともなう津波によるものと推察される。比較的沿岸に近い地方都市は大規模な水害に見舞われたが、その復興の度合いは都市によってまちまちである。鹿児島県新枕崎市や神奈川県新小田原市などには復興の跡が見られるものの、愛知県豊橋市や山口県宇部市などでは、水没部はほぼ手付かずの状態で放置されている。ちなみに、旧東京の湾岸地域についても一部は放置区域とされているが、内陸に程近い部分では再建が進められ国立の音楽堂などが建設されている。

抑圧

精神分析学の用語で、防衛機制（自我を守る作用）のひとつ。自分を脅かすことになる記憶や感情、観念などと、それに付随する衝動や情動を無意識下へと追いやる作用のこと。EVA初号機に取り込まれた碇シンジの内面世界のほか、惣流・アスカ・ラングレーの内面世界においても見られる。

予算

NERVの活動予算については、上位機関である人類補完委員会が決定権を持っているらしい。碇ゲンドウが人類補完委員会の会議に出席した際、幾度か予算について会話している場面が見られる。具体的な予算額は明示されていないが、人類補完委員会の会議内で、第3使徒サキエルとの戦闘に際して生じたEVA初号機の修繕費は「国がひとつ傾く」額であると言及されていた。

四人目の適格者

第拾七話のサブタイトル。英文タイトルの「FOURTH CHILDREN」は邦題の訳である。フォースチルドレンに選出された鈴原トウジを意味したタイトルで、彼の心の葛藤を描いた第拾七話の内容を端的に表現している。

予備

碇ゲンドウがシンジを指して用いた単語。自らの息子であろうと「EVAパイロットの予備」としてしか扱わないゲンドウの、NERV総司令としての非情さを物語る言葉である。

予備電源

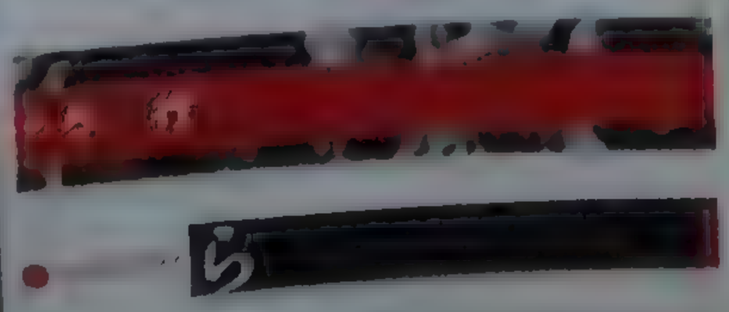
内部電源、内蔵電源とも称されるEVAの電源。EVAが外部より電力供給を受けられない場合等に使用される。

402号室

綾波レイが居住するマンモス団地の部屋番号。レイはこの部屋で1人暮らしをしている。コンクリートが打ちっぱなしの殺風景な室内は、レイの生まれた人工進化研究所3号分室に酷似している。

400%

第14使徒ゼルエルとの戦闘において記録された、碇シンジとEVA初号機とのシンクロ率。伊吹マヤによりモニターされている。シンクロ率400%の正体は、EVAが操縦者を取り込み、一体化してしまった結果であった。



雷雲

雷を伴う積乱雲のこと。EVA3号機の輸送において雷雲を通過するが、その直後に奇妙な放電が走る。

ライデン

ゲーム「新世紀エヴァンゲリオン 鋼鉄のガールフレンド」に登場するオリジナルメカニック。戦略自衛隊が試作したトライデント級陸上軽巡洋艦T・RAIDEN・T。パイロットへの負荷が大きく、霧島マナは内臓を壊しパイロットを断念している。戦略自衛隊の少年兵ムサシ・リー・ストラスバーグと浅利ケイタが奪取した。
登場作品「新世紀エヴァンゲリオン 鋼鉄のガールフレンド」

ラップトップPC

持ち運び可能な小型PCのこと。一般的にはノートPCと呼ばれているもの。碇シンジたちの第壱中学校では、授業に赤いラップトップPCを使用している。

ラブレター

恋い慕う気持ちを書き付けた手紙の事。惣流・アスカ・ラングレーが第3新東京市立第壱中学校に転入して間もない頃、彼女の靴箱には大量のラブレターが入れられていた。人気のバロメータともいえるものだが、アスカは憎しみを込めるように踏みつけており、読んでさえいないと思われる。

ラベンダーの香り

葛城ミサトが持つ香水の香り。友人の結婚式に出た際に使用した。その夜、泥酔したミサトを送ってきた加持リョウジの身体からラベンダーの香りを感じたことで、惣流・アスカ・ラングレーはふたりの復縁を悟る。なお、ラベンダーの花言葉には「あなたを待っています」「私に答えて下さい」「期待」「不信」「疑惑」「沈黙」「許し合う恋」などがある。

ラミエル

正八面体の幾何学的形状を持つ第5使徒。一定距離内に入った外敵を、加粒子砲で自動的に撃破する能力を持つ。また、本体下部に直径17.5メートルの掘削用シールドを所持し、ジオフロント直上より穿孔することでNERV本部への直接攻撃を目論む。しかし、本部到達直後にEVA初号機、EVA零号機により風間されたヤシマ作戦において殲滅された。なお、ラミエルは「エノク書」に登場する7大天使の1人。その名は「神の慈悲」を意味し、幻惑を支配する力で地上の人間に黙示を与える存在であるとされている。また、雷を司る天使でもあるという。

攻守共に優れた能力を持つ第5使徒ラミエル。葛城ミサトは「空中要塞」と称していた。

り

リアクター

原子炉のこと。核分裂連鎖反応を持続的に発生、制御することでエネルギーを得るシステムを持つ。J.A.の動力源となる内燃機関。また、オーバー・ザ・レインボウのリアクターはEVA弐号機の外部電源として用いられている。なお、第5使徒ラミエルの内部機関もリアクターと称されていた。

リニア式小田急ロマンスカー

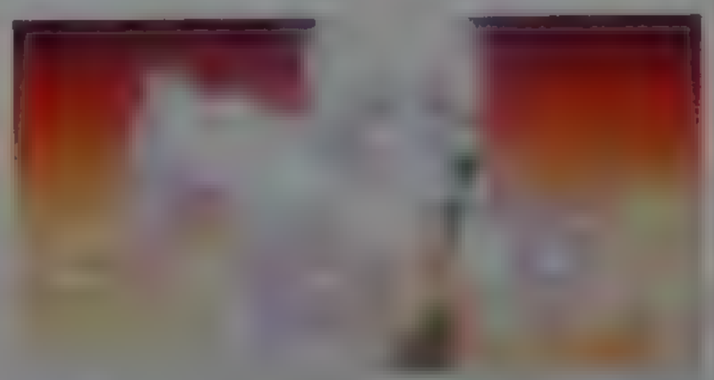
小田急7700系の特急リニアトレイン。名称は「CHiSE」。展望席つきの11両編成で、デビューは2009年。

リフトビル

第3新東京市に建つ偽装ビルのひとつ。EVA及びその武装を移送するためのリニアレールによるエレベーターの地上出口であり、ジオフロントと地上の間を繋ぐ。

リリス

NERV本部地下最深部、ターミナルドグマのL.C.L.プラント内で磔にされていた巨人。第17使徒タブリスに看破されるまで、この巨人は碇ゲンドウらに「アダム」と称されていたが、その正体は人類の始祖たる存在リリスだという。その魂は綾波レイの肉体に宿されていたと推測されるが、定かではない。人類補完計画発動の際にレイと合一したリリスは、アンチA.T.フィールドを展開し、サードインパクトの一因を担う。なお、リリスとは本来、メソポタミアにおける女の夜の妖怪の名であったが、後に聖書「イザヤ書」にも登場した。リリスはアダムの妻であるという伝承については、中世頃に誕生したものである。



レイと合一したリリスは、巨大なレイの姿で出現。MAGはこの成長パターンを胚と分析しながら、観測データからヒトであるとも日向マコトは判断した。

リリスの卵

ジオフロントの真の姿。別名、黒き月。発令所のモニター表記はLILITH'S EGG。黒き月も参照。

リリン

18番目の使徒とされる人類のこと。第17使徒タブリスは、人類を指すときにこの言葉を用いた。なお、ユダヤ教においては、女悪魔リリスから生まれた娘たちのことをリリンと呼

リリンのしもべ

[illegible]

● [illegible] る

LUNAR MODULE 307

[illegible]307[illegible]は月のWALTERクレーターに突き[illegible]ロンギヌスの槍の映像を送信、地球に送信した

● CATEGORY れ

レイ、心のむこうに

[illegible]タイトル。英文タイトルは「Rei I」。綾波レイについてのエピソードを語られる物語のひとつで、碇シンジとの交流を描く最初のエピソードである。

歴史の教科書

碇シンジたちが中学校の授業で使用している教科書。セカンドインパクトについては、正式発表の通り、大質量隕石の[illegible]による天災であるとの旨が掲載されている

レゾンデートル

フランス語で「存在理由」を意味する哲学用語。人類の補完が始まる際、投げかけられる言葉。EVAに乗る少年少女は、何かしらの形で自らの存在理由を求めていた。碇シンジは何度も繰り返し「ここにいてもよい理由」を自問する姿を見せ、惣流・アスカ・ラングレーが第15使徒アラエルの精神攻撃を受けた際は、内面世界において「存在理由」の文字が見られる

劣化ウラン弾

ウラニュウム濃縮過程で生じる廃材を用いた合金で作られる貫通力の高い弾丸。バレットライフルに装填されている

レモングラフ

料理雑誌の名前。洞木ヒカリが所持しており、鈴原トウジに弁当を作る際に参考としていた

レリエル

直径680m、厚さ約3ナノメートルの極薄の空間を本体とする、第12の使徒。空中に浮かぶ白と黒の球体は、本体の[illegible]体にEVA初号機を取り込むことに成功する[illegible]同機により内側から破壊された。なお、レリエルはユダヤ、キリスト教神秘主義の伝承等に見られる[illegible]

赤木リツコによると本体は内向きのA.Tフィールドで支えられており、その内部は「ティラックの海」と呼ばれる虚数空間か存在別の宇宙につながっているということらしい

● CATEGORY ろ

62秒

第7使徒イスラフェル殲滅作戦に必要とされた時間。この長さの音楽に合わせてEVA初号機とEVA弐号機を完全にユニゾンさせ、イスラフェルのコア2点に対し同時に過重攻撃を加えるというのがその作戦内容であった。

六分儀ゲンドウ

碇ゲンドウの旧名。研究生時代に碇ユイと知り合い、後に結婚。碇姓を名乗るようになる。なお、「六分儀」は船の現在位置を計測するための航海計器。碇ゲンドウも参照。

601

解析不能を示すコードナンバー。第4使徒シャムシエルの残骸を解析した結果ディスプレイに表示された。なお、この数字は、マイケル・クライトンによるSF小説「アンドロメダ病原体」をロバート・ワイズ監督が映画化した「アンドロメダ…」の中で、病原体であるアンドロメダ菌株をコンピュータで分析した際、解読不能を意味する「601」という数値が表示されたというエピソードに由来すると思われる

ロケットランチャー車両

MLRS「Multiple Launch Rocket System」(多連装ロケット弾発射システム)を備えた自走発射機。第3使徒サキエルが第3新東京市を襲撃した際に用いられた。国連軍仕様のほか、カラーの異なる戦略自衛隊仕様もある。

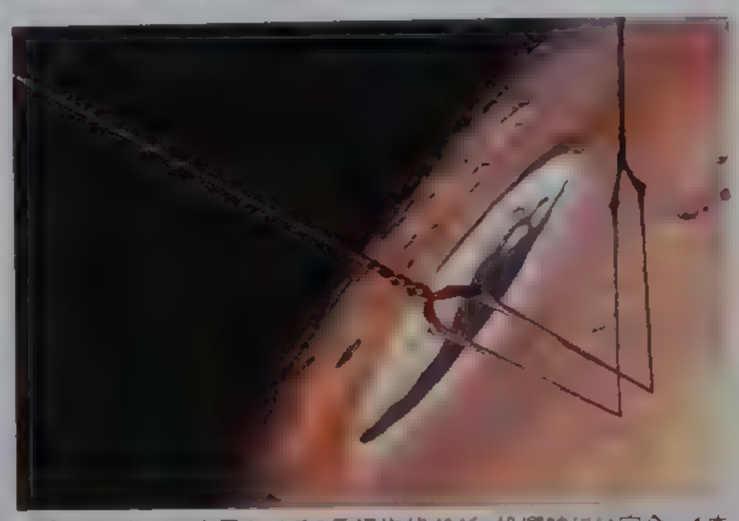
短時間で大量の火力を投入可能な長距離火力支援兵器だが、使用効果は無かった

ロジックモード

MAGIシステムの思考モードのひとつ。第11使徒イロウルがMAGIバルタザールに侵入した際、ロジックモードを変更[illegible]ンクロコードを15秒単位にすることにより、計算速度を減速させ、侵入を遅らせることに成功した。

ロンギヌスの槍

螺旋のような形状を持ち、先端が二股に分かれた槍。A.Tフィールドを突破する機能を持つ。死海から南極に運ばれたロンギヌスの槍は、葛城調査隊での実験に用いられた。セカンドインパクト発生の15年後に碇ゲンドウと冬月コウゾウにより回収され、EVA零号機により磔にされたリリスの胸に突き刺される。その後、第15使徒アラエル襲来時、同使徒に向け投擲。目標殲滅後は第1宇宙速度を突破して月軌道に移行、回収は不可能となる。しかし、ゼーレによる人類補完の儀式が開始する直前、初号機に呼応して月より帰還、初号機と合一して生命の樹と化した。なお、キリスト教におけるロンギヌスの槍は、イエス・キリストが磔刑にされたあと、生死を確認するためにわき腹を突き刺したとされるもので、「聖槍」とも呼ばれる。



通常時にはDNAを思わせる2重螺旋状だが、投擲時には完全に1本の形に収束する

ロンギヌスの槍（レプリカ）

EVA量産機が装備する武器。普段は両刃の大剣のような形状の武器であるが、A.T.フィールドを貫通する際はロンギヌスの槍（オリジナル）と同形状に変化する。人類補完計画の発動後、オリジナルの発する光を受け消滅した。

A.T.フィールドを[illegible]槍へと変化。その[illegible]

● ATフィールド わ

私は人形じゃない！

第15使徒アラエルにより精神攻撃を仕掛けられた際、内面世界の中で惣流・アスカ・ラングレーが叫んだ言葉。アスカの母が人形を自らの娘と思い込んでいたという記憶がトラウマとなり、精神攻撃によりそれが顕在化したことで発されたものと思われる。なお、アスカに「人形」と言われた綾波レイもこの言葉で反論している。

©GAINAX・カラー/Project Eva ©GAINAX・カラー EVA[illegible]

エヴァンゲリオンのアクションフィギュア

可動式関節をそなえ、多彩なポーズが取れ[illegible]ムは、ブーム当時より各メーカーからリリースされており、現在も日進月歩の技術で新商品が登場。キャラクター、メカニックともにハイクオリティなものがそろっている。

アクションフィギュアの世界

[illegible]ッしいホビーショップ内でも、[illegible]のアクションフィギュアは、常に新商品が[illegible]月[illegible]の公開もあり、この新[illegible]定に合わせ[illegible]を強めている。

[illegible]けられ[illegible]ーバックと[illegible]A各機だけでなく使徒もラインナッ[illegible]また、低価格ながら可動箇所も多く、塗装済み、[illegible]アクセサリーパーツも充実したプレイバリュ[illegible]の高いフィギュアとなった。セガはTV放送のスポンサーであり、キャラクター玩具にも力を入れ始め[illegible]あってのリリースであった。

[illegible]の実績により作品が一区切りし[illegible]の[illegible]1999年、アクションフィギュアの新機軸として話題となったのが、海洋堂の初号機である。[illegible]と名付けられる新商品を展開し[illegible]の初号機は、リリース直後からファンの[illegible]があり、続々と新商品が発売された。また、この"山口式可動"は、2006年よりリリースが開始された「リホルテック」にも採用されており、今となってはまさに同シリーズのルーツに当たるフィギュアとも言える。

可動方式、造形、塗装と日進月歩で技術向上しているアクションフィギュアにおいて、エヴァは各メ[illegible]の新シリーズスタート時にラインナップされ[illegible]り多い作品である。コレクターストイとして幅広い層から支持を集めているメディコム・トイの「KUBRICK」でも、エヴァはそのリリース最初期よりシリーズラインナップされた。それ以外にも人気シリーズのラインナップに名を連ねることも多く、タカラトミーの「ミクロマン」、ボークスの「カスタマイズ[illegible]キュア」などにも登場。各シリーズにおいて圧倒的なセールスを上げている。10年以上前の作品に関わらず、常に新商品がリリースされ続けるのも、やはりエヴァのネームバリューとコンテンツとしての魅力あってこそ、と言える。すでにエヴァはホビー業界においてキラーコンテンツのひとつとなっている。それだけに今後も革新的な新シリーズのブラッシュアップとして世に放たれていくことであ[illegible]

特記事項

GKにおけるアクションフィギュア

GKにおいても、様々なアクションフィギュアがリリースされた。とくにGK版はリリースが早く、TV放映時から初号機などが発売されている。その最初期のものは、木下情氏原型によるコトブキヤ製のもので、1995年12月にリリースされた。以後、各GKメーカーがこぞってEVA各機をアクションフィギュア化しており、インジェクション成型のものなどが登場した。中でもコトブキヤの仕様シリーズやボークスのGGIコレクションなどは、初号機以外のシリーズラインナップも充実しており、人気も高かった。

◀仕様 EVA-01
発売日：1996年6月
価　格：15,750円（税込）
発売元：コトブキヤ

GGI
エヴァンゲリオン初号機▶
発売日：1998年7月
価　格：[illegible]
発売元：ボークス

NEON GENESIS EVANGELION ACTION FIGURE COLLECTION #01

CHRONICLE
2005〜2007

アクションフィギュア コレクション#01

ボークス/タカラトミー

ボークスのカスタマイズフィギュア"かすたま"やタカラトミーの"ミクロマンアクションシリーズ"としてもエヴァはラインナップ。綾波やアスカなどがアクションフィギュア化されている

COLLECTION # 01
かすたまP
綾波レイ
発売日：2007年5月20日
価格：7,140円（税込）
発売元：ボークス
備考：PVC製塗装済み完成、専用デカール付属、未塗装・未組立品の"カスタマイズフィギュア"版も限定販売された

COLLECTION # 02
かすたまP
惣流・アスカ・ラングレー
発売日：2007年5月20日
価格：7,140円（税込）
発売元：ボークス
備考：PVC製塗装済み完成、専用デカール付属。未塗装・未組立品の"カスタマイズフィギュア"版も限定販売された

COLLECTION # 03
カスタマイズフィギュア
碇シンジ
発売日：2006年9月20日
価格：7,140円（税込）
発売元：ボークス
備考：未塗装・未組立品、専用デカール付属。限定販売商品

COLLECTION # 04
カスタマイズフィギュア
渚カヲル
発売日：2006年8月20日
価格：7,140円（税込
発売元：ボークス
備考：未塗装・未組立品、専用デカール付属。限定販売商品

COLLECTION # 05
ミクロアクション
新世紀エヴァンゲリオン 綾波レイ（プラクスーツVer.）
発売日：2006年5月
価格：1,575円（税込）
発売元：タカラトミー
備考：専用武器、オプションハンド付属

COLLECTION # 06
ミクロアクション
新世紀エヴァンゲリオン 惣流・アスカ・ラングレー（プラグスーツVer.）
発売日：2006年5月
価格：1,575円（税込）
発売元：タカラトミー
備考：専用武器、オプションハンド付属

COLLECTION # 07
ミクロアクション
新世紀エヴァンゲリオン 綾波レイ（制服Ver.）
発売日：2005年10月
価格：1,365円（税込）
発売元：タカラトミー
備考：オプションハンド、学生カバン付属

COLLECTION # 08
ミクロアクション
新世紀エヴァンゲリオン 惣流・アスカ・ラングレー（私服Ver.）
発売日：2005年10月
価格：1,365円（税込）
発売元：タカラトミー
備考：オプションハンド、サルのぬいぐるみ付属

COLLECTION # 09
ミクロアクション
エヴァンゲリヲン 綾波レイ（包帯Ver.）
発売日：2007年9月
価格：[illegible]
発売元：タカラトミー
備考：オプションハンド付属、イベント限定品

COLLECTION # 10
ミクロアクション
エヴァンゲリヲン 綾波レイ（新劇場版制服Ver.）
発売日：2007年9月20日
価格：1,680円（税込）
発売元：タカラトミー
備考：カバン、ノートパソコン、オプションハンド付属

COLLECTION # 11
ミクロアクション
エヴァンゲリヲン 惣流・アスカ・ラングレー（新劇場版制服Ver.）
発売日：2007年9月20日
価格：1,680円（税込）
発売元：タカラトミー
備考：カバン、ノートパソコン、オプションハンド付属

COLLECTION # 12
ミクロアクション
エヴァンゲリヲン 新劇場版公開記念 プラグスーツセット
発売日：2007年9月20日
価格：3,675円（税込）
発売元：タカラトミー
備考：専用武器×2 オプションハンド×2組付属

©GAINAX・カラー/Project Eva ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会 制作協力©ボークス・海洋堂

NEON GENESIS EVANGELION ACTION FIGURE COLLECTION #02

CHRONICLE
2000〜2006

アクションフィギュア コレクション#02

メディコム・トイ

限定品やコラボアイテムが多く、コレクターにも人気のKUBRICK　エヴァはそのリリース初期からシリーズ化されており、キャラクターだけでなく、EVAや使徒もラインナップされている。

COLLECTION #01

KUBRICK 新世紀エヴァンゲリオン シリーズ1

発売日：2000年4月
価　格：2,079円（税込）
原型製作：平田英明（MASTERD MODELS）
発売元：メディコム・トイ

↑碇シンジ

↑初号機

↑サキエル

↑綾波レイ（包帯バージョン）

↑零号機（テストタイプ）

↑ラミエル

COLLECTION #02

KUBRICK 新世紀エヴァンゲリオン シリーズ2

発売日：2001年1月
価　格：2,079円（税込
原型製作：平田英明（MASTERD MODELS
発売元：メディコム・トイ

COLLECTION #03

KUBRICK 新世紀エヴァンゲリオン シリーズ3

発売日：2001年1月
価　格：2,079円（税込）
原型製作：平田英明（MASTERD MODELS）
発売元：メディコム・トイ

←惣流アスカラングレー

←弐号機

←イスラフェル

COLLECTION #04

KUBRICK 新世紀エヴァンゲリオン シリーズ4

発売日：2001年7月
価　格：2,079円（税込
原型製作：平田英明（MASTERD MODELS
発売元：メディコム・トイ

←綾波レイ

←零号機（改）

←リリス

COLLECTION #05

KUBRICK 新世紀エヴァンゲリオン シリーズ5

発売日：2001年1月
価　格：2,079円（税込）
原型製作：平田英明（MASTERD MODELS）
発売元：メディコム・トイ

←鈴原トウジ

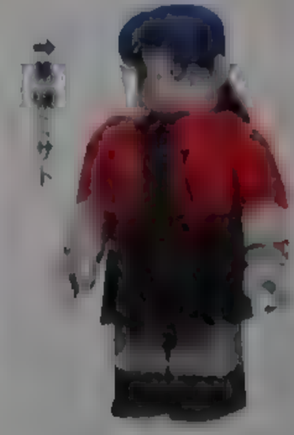
←EVA零号機

←ジェット・アローン

COLLECTION #06

KUBRICK 新世紀エヴァンゲリオン シリーズ6

発売日：2001年12月
価　格：2,079円（税込
原型製作：平田英明（MASTERD MODELS
発売元：メディコム・トイ


←鈴原トウジ

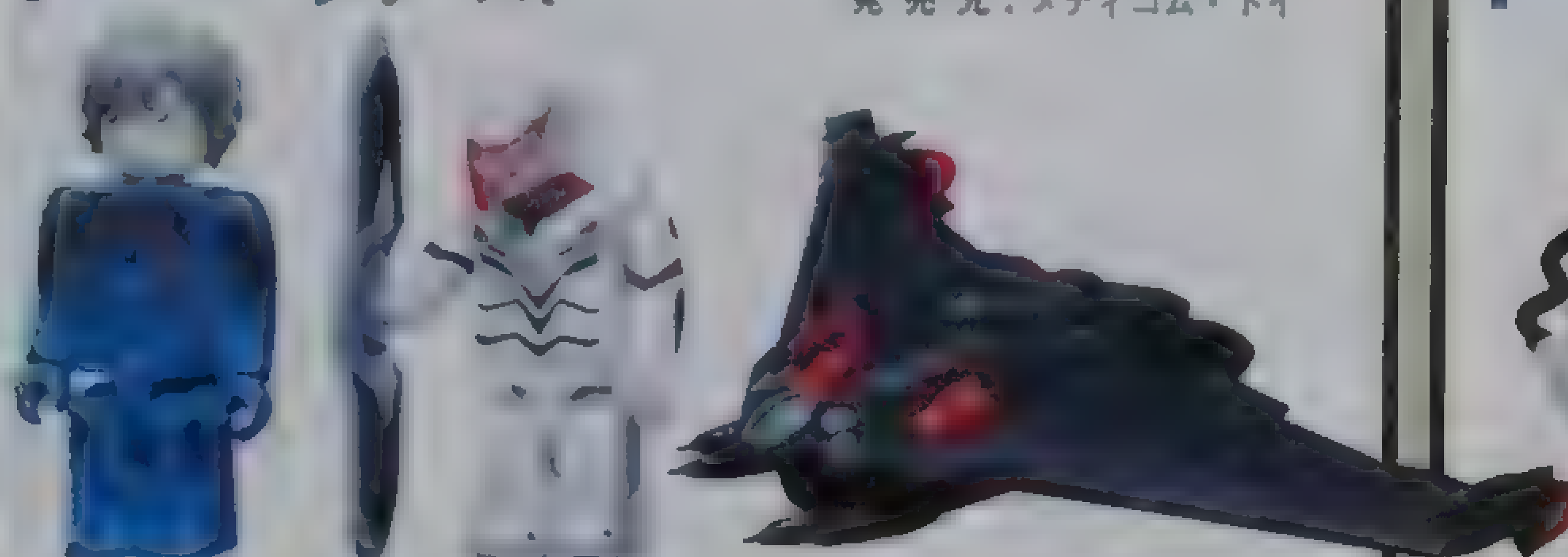
←EVA初号機量産版

←カヲルエル

COLLECTION #07

KUBRICK
新世紀エヴァンゲリオン
シリーズ7

発 売 日：2001年12月
価　　格：2,604円（税込）
原型製作：平田英明
(MASTERD MODELS)
発 売 元：メディコム・トイ



↑渚カヲル　↑EVA量産機　↑量産機専用輸送機

COLLECTION #08

KUBRICK
新世紀エヴァンゲリオン
シリーズ8

発 売 日：2002年5月
価　　格：2,604円（税込）
原型製作：平田英明
(MASTERD MODELS)
発 売 元：メディコム・トイ

↑弐号機D型装備　↑惣流アスカラングレー D型プラグスーツタイプ　↑サンダルフォン

COLLECTION #09

KUBRICK
新世紀エヴァンゲリオン
シリーズ9

発 売 日：2002年5月
価　　格：2,079円（税込）
原型製作：平田英明
(MASTERD MODELS)
発 売 元：メディコム・トイ

↑レリエル　↑初号機返り血版　↑加持リョウジ

COLLECTION #10

KUBRICK
新世紀エヴァンゲリオン
シリーズ10

発 売 日：2002年5月
価　　格：2,604円　税込
原型製作：平田英明
(MASTERD MODELS
発 売 元：メディコム・トイ

セーレ01↓

↑光の巨人　↑キール・ローレンツ　↑碇ゲンドウ　↑碇ユイ

COLLECTION #11

KUBRICK
新世紀エヴァンゲリオン
初号機 400%

発 売 日：[illegible]
価　　格：[illegible]
原型製作：[illegible]
MASTERD MODELS
備　　考：ワンダーフェスティバル2003 [illegible]
発 売 元：メディコム・トイ

COLLECTION #12

BE@RBRICK
SERIES13
綾波レイ

発 売 日：2006年12月
価　　格：399円（税込）
備　　考：BE@RBRICK SERIES13 [illegible]
発 売 元：メディコム・トイ

追加報告

REAL ACTION HEROESシリーズ

メディコム・トイのREAL ACTION HEROES（以下RAH）は、全身フル可動のアクションフィギュアでありながら、30cmサイズの素体にアウトフィット（服などの[illegible]）を着せるファッションドールとしての側面を持つ人気シリーズ。[illegible]

●惣流・アスカ・ラングレー（プラグスーツVer.）
発売日：2006年5月　価格：12,440円（税込）[illegible]

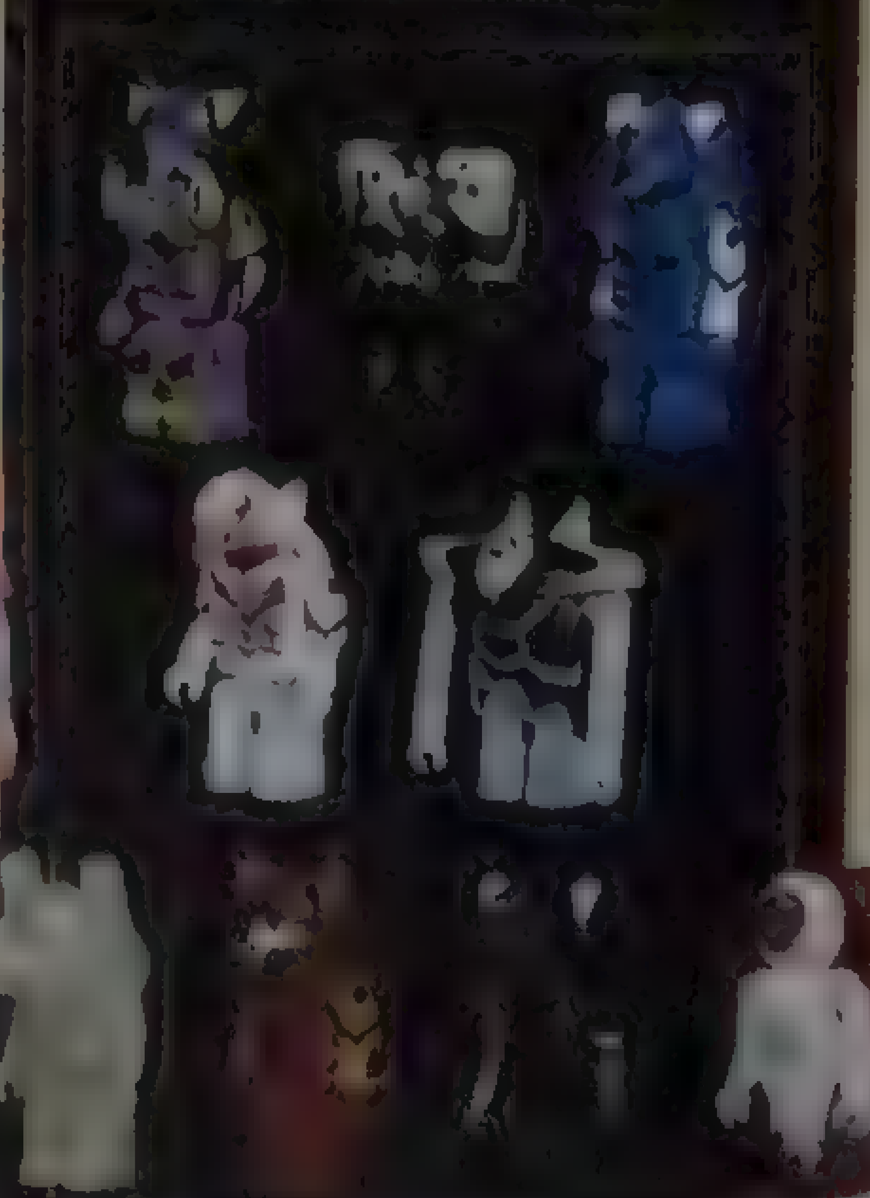
●綾波レイ（プラグスーツVer.）
[illegible]

●綾波レイ（[illegible]Ver.）
[illegible]

特記事項

HMV限定 KUBRICK

2003年のリニューアル版DVD「NEON GENESIS EVANGELION」リリースの際、大手CDショップのHMVはキャンペーンを開催。リニューアル版DVD単品を1枚購入するごとに限定版KUBRICKを1体（ランダムで）プレゼントしていた。ラインナップは全9種類。どれもレアなアイテムである。



NEON GENESIS EVANGELION ACTION FIGURE COLLECTION #03

CHRONICLE
1999〜2003

アクションフィギュア コレクション #03

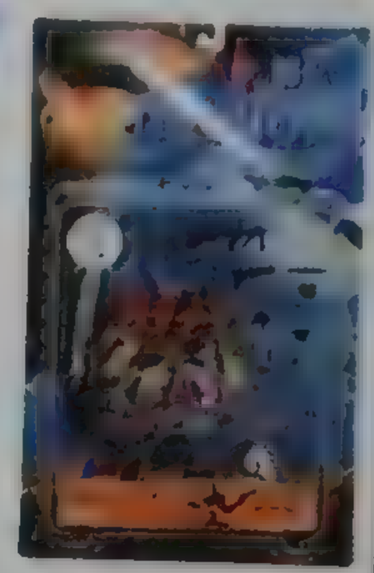
海洋堂

のちに「リボルテック」に組み込まれる山口式可動を初搭載した海洋堂製アクションフィギュア。1999年の初号機リリース以降、限定版やリペイント版など含め多彩なシリーズ展開が行なわれた

COLLECTION # 01
リペイント限定バージョン
初号機

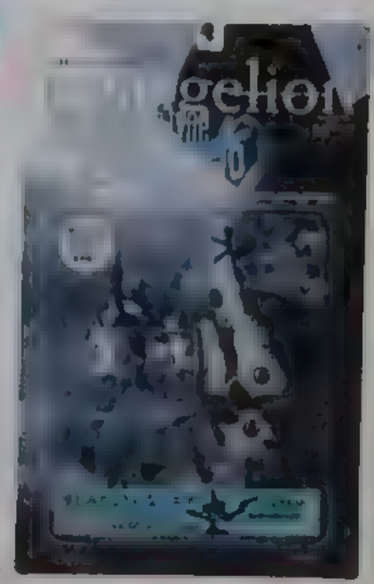
発売日：2000年2月
価　格：3,129円（税込）
発売元：海洋堂

COLLECTION # 02
リペイント限定バージョン
弐号機



発売日：2000年4月
価　格：3,129円（税込
発　売：海洋堂

COLLECTION # 03
リペイント限定バージョン
零号機（改）

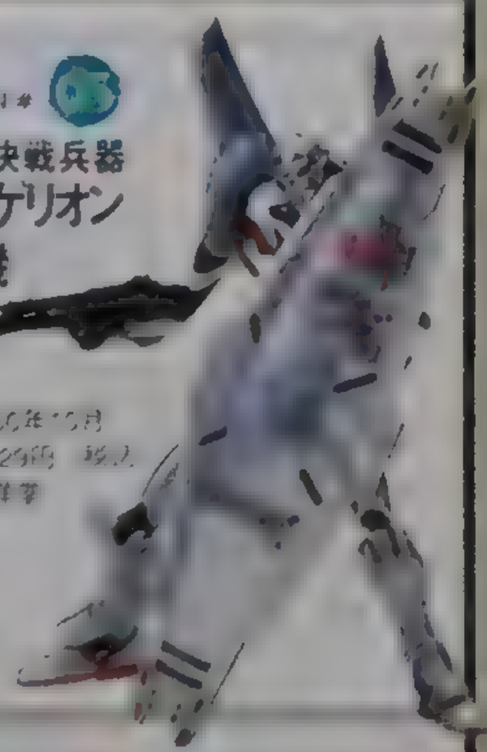


発売日：2000年4月
価　格：3,129円（税込）
発　売：海洋堂

COLLECTION # 04
リペイント限定バージョン
零号機

発売日：2000年6月
価　格：3,129円（税込）
発　売：海洋堂

COLLECTION # 05
汎用人型決戦兵器
エヴァンゲリオン 四号機



発売日　2000年10月
価　格　3,129円（税込
発　売：海洋堂

COLLECTION # 06
汎用人型決戦兵器
エヴァンゲリオン 弐号機
劇場版

発売日：2003年4月
価　格：3,675円（税込）
発　売：海洋堂

COLLECTION # 09
汎用人型決戦兵器
エヴァンゲリオン 初号機 EXTRA

発売日：2000年4月
価　格：4,179円（税込
発　売：海洋堂

COLLECTION # 07
汎用人型決戦兵器
エヴァンゲリオン 量産機
Standard version

発売日：2003年4月
価　格：3,675円（税込）
発　売：海洋堂

COLLECTION # 08
汎用人型決戦兵器
エヴァンゲリオン 量産機
ultimate version

発売日：2003年4月
価　格：3,990円（税込）
発　売：海洋堂

NEON GENESIS EVANGELION ACTION FIGURE COLLECTION #04

CHRONICLE
1997

アクションフィギア
コレクション #04

セガ

フリスターパックによるパッケージングのセガ製アクションフィギュアは、劇場版公開前の2月よりリリースが開始された。すでに絶版だが、2007年以降に北米版として再リリースされる予定である。

COLLECTION # 01
リアルモデルシリーズ
エヴァンゲリオン 初号機 暴走仕様
発売日：1997年8月
価格：1,980円（税込）
発売元：セガ

COLLECTION # 02
リアルモデルシリーズ
エヴァンゲリオン 零号機
発売日：1997年5月
価格：1,980円（税込
発売元：セガ

COLLECTION # 03
リアルモデルシリーズ
エヴァンゲリオン 零号機(改)
発売日：1997年6月
価格：1,980円（税込）
発売元：セガ

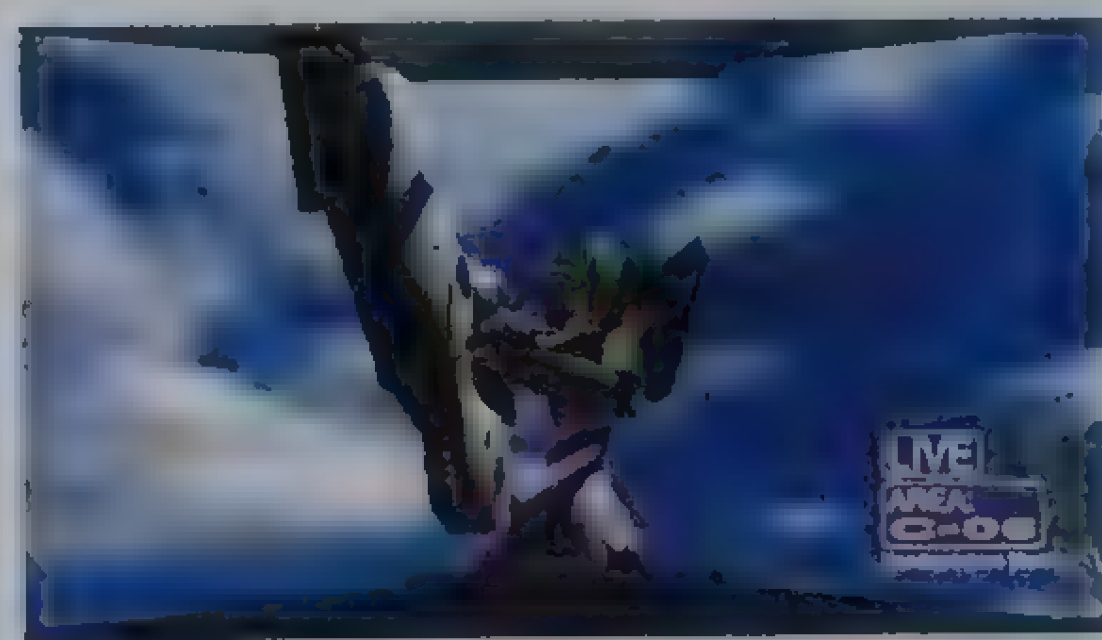
COLLECTION # 04
リアルモデルシリーズ
エヴァンゲリオン 参号機
発売日：1997年7月
価格：1,980円（税込）
発売元：セガ

COLLECTION # 05
リアルモデルシリーズ
第3使徒サキエル
発売日：1997年8月
価格：1,980円（税込
発売元：セガ

COLLECTION # 06
リアルモデルシリーズ
第14使徒ゼルエル
発売日：[illegible]
価格：[illegible]
発売元：[illegible]

PICK UP SPIN-OFF GAME

新世紀エヴァンゲリオン2 造られしセカイ
another cases



"2" の名を冠することを許されたエヴァのゲーム作品。登場人物はAIによって表現され、ゲームの進行を司るAIは限りなく庵野秀明監督に近い思考を持たされているため、エヴァらしい演出が成されるシステムを持つ。そのため庵野監督自身が "2" を名乗ることを提案したという。なお、アニメにおいて謎だった部分に対し、ゲーム世界なりの回答を提示している点も見逃せない。アニメオリジナルスタッフである山下いくと氏がメカニックの新デザインを手がけており、初号機F型装備は立体化もされている人気アイテムとなっている。当初PS2でリリースされたが、エヴァ10周年記念プロジェクトの一環として、大幅なリメイクを施したPSP版がリリースされた

オリジナルメカニック

PICK UP SPIN-OFF GAME

初号機F型装備

[illegible]装着できるAFCエクスペリメント・フィー[illegible]AT フィールド[illegible]の新技術[illegible]ている微[illegible]推進、攻撃に転[illegible]ATフィールドを纏[illegible]ATフィールト[illegible]可能にする「AT[illegible]絶大な威力[illegible]インパクトボルト」か[illegible]ものの、通常装備[illegible]ATASジェット推進器[illegible]ている。しかも ATAS[illegible]ATフィールドと干渉する状態[illegible]は使用で[illegible]技術[illegible][illegible]

全領域兵器／マステマ

「A W MASTEMA」。シールドとしても使えるオールレンジに対応可能なマルチウェポンである。内蔵兵器は、超振動で物体を分子レベルで切り裂く近接用ブレードやガトリング砲、さらに出力を限定したn²ミサイルをも搭載。なお、「マステマ」とはヘブライ語で「悪意」「敵意」を意味する

レールドシャーシ風のボディは軽量であり、火器の装弾数も多い。F型装備のような不安定な技術を用いていないため、兵器としての信頼性が高い武器である

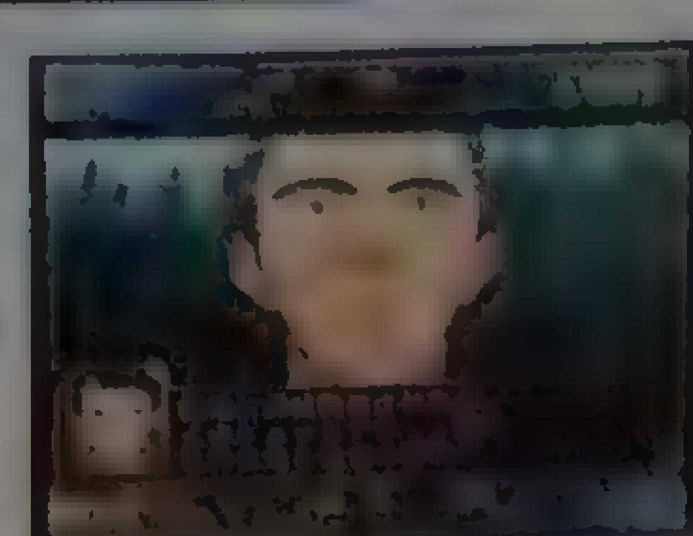
大型破砕兵器デュアル・ソー

使徒の自己再生能力を遅延させることを目的として開発された近接用の破砕兵器。なお、貞本義行氏の漫画版では渚カヲルの搭乗した弐号機が装備し、アルミサエルと対峙した

両刃のチェーンソーである物騒な武器。高速回転する複数の高周波刃により、対象物を再生不可能なまでに破砕することで再生速度を鈍らせる機能を持つ

J.A.改

J.A.の改良機。とはいえ、事実上J.A.の一番機である。当初J.A.は、新型炉であるn²リアクター実装型として開発か進められていた。しかし、リアクターの開発は遅れ、公試に間に合わせることが開発の絶対条件であったため、急遽、四肢調整用のテストベッド機に既存の核リアクターを搭載したものをJ.A.プロトタイプと偽って公試に望むこととなる。その結果、NERVの謀略により暴走事故を起こしてしまうJ.A.だったか本来の新型炉実装機体は実験機として扱われていたため偶然にも解体を免れ、完成を見ることになった。なお、使徒との戦闘には間に合わないものの、量産機による本部強制接収の際に駆けつけ、味方として戦ってくれる。J.A.より一回り小さい機体だが、出力は大きく敏捷。冷却系は一次系のみであり活動には膨大な量の冷却水を消費。そのためEVAのアンビリカル・ケーブルのような給水チューブを持ち、水源地の近くでないと長時間の運用ができない。しかしながら、その攻撃にはA.T.フィールドを突破する破壊力があり、その性能は侮れない。上半身を一回転して殴りつける巨大なハンマー状の武器のほか、腕のリング状装備から電撃の放出か可能である



Column コラム A.T.フィールドアタック

A.T.フィールドを武器として用いる攻撃手段。武装ではないものの、EVA本来の力といえよう。ゲーム内で赤木リツコがA.T.フィールドの多彩機能を生み出して使えるようになる

[illegible]用いる[illegible]ゲーム内で[illegible]使えるようになる[illegible]である

Column コラム マゴロク・E・ソード

「マゴロク・エクスターミネート・ソード」。EVAのデザイナーである山下いくと氏が「月刊ニュータイプ」の表紙で描いた日本刀調の刀。愛称はマゴロクックス。

[illegible]の刀で、超振動により物体を分子レベ[illegible]

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©1997 GAINAX・カラー・EVA製作委員会 ©[illegible]

ワールドシミュレーターによるエヴァの世界

[NEON GENESIS EVANGELION]

エヴァの世界を体験できるシミュレーターゲーム本作である。NEON GENESIS EVANGELIONS と題されたタイトルは複数形の"S"になっており、これはプレイヤー自身が世界の中に入り、自分たちのエヴァを動かしてみる、というコンセプトである。

登場人物それぞれが独自のAIを持って動いている世界。"まるで"キャラクターがいるエヴァの補完といえる。

プレイヤーはシンジ以外のキャラクターを主役にして行動できるため、ゲームならではの"if"展開も可能だ。

映像は基本的にリアルタイムカクヴィクスで人物が遠景者ではない場合、顔を動かして見ることになる。

純粋にワールドシミュレーターとしてプレイし、オリジナル通りの展開を演じてアニメの追体験をするのも良し。

©GAINAX・カラ（Project Eva ©1997 GAINAX・カラ・EVA制作委員会 ©2006 NBGI

©GAINAX・カラ Project Eva ©GAINAX・カラ・EVA制作委員会

桃源台近くの展望台から望む芦ノ湖。作品の設定では、この付近の地下に巨大空洞が発見され、NERV本部、さらに第3新東京市などが造られたことになっている。ヤシマ作戦を始め、数々の対使徒戦が演じられたのもこの周辺である。

エヴァのロケーション

エヴァの舞台となった日本有数の景勝地

EXTRA SHEET

箱根と言えば日本有数の景勝地であるが、エヴァにおいては、第3新東京市（NERV本部）が居を構える作品の主舞台である。箱根山を中心とする連山に囲まれたこのカルデラで、多くの対使徒戦、そして、碇シンジを中心とする物語は繰り広げられたのだ。また、箱根東部の駿河湾方面に目を向ければ、使徒の侵攻路として作中で登場する小田原や真鶴などもあり、設定を知れば知るほど、いかに箱根がエヴァゆかりの地であるかわかるであろう。当然、劇中とリンクする場所は随所に見られ、ヤシマ作戦の舞台となる二子山、第16使徒アルミサエルが停滞した大涌谷と枚挙に暇がない。

そして、かの地は、庵野監督がファンを公言する「ウルトラマン」シリーズと関係が深いことも見逃がせない。同シリーズにおいて、箱根近郊は数多の怪獣の出現場所となっており、これはNERV本部を目指して侵攻してくる使徒との共通項でもある。エヴァの設定上、箱根が最重要地域となったことは、この辺りとも何かしら因果関係があるのかもしれない。また、アニメ業界では、アニメーターたち制作関係者が打ち上げの場として利用することでも知られている。それは都内から日帰り可能な温泉街――新宿から小田急ロマンスカー（劇中に登場するリニア式ロマンスカーのモデルでもある）で約1時間半――という利便性がその理由であろう。それだけに庵野監督自身も作品の打ち上げなどで箱根を訪れる機会も多かったようで、業界的にも何かとゆかりのある土地であった。

TV放送開始から10年以上経過した2007年現在、箱根は、メインスタッフによるロケハンが行なわれたとされる1994年当時と、その様相を若干ながら変貌させている。それでも周辺を散策すれば作品中に登場したロケーションの数々が確認できる。作品の設定を踏まえることで、エヴァファンならではの箱根観光もできると言えよう。

（取材：2007年6月）

LOCATION COLUMN

芦ノ湖 LAKE ASHINO

芦ノ湖は、火山帯である箱根山付近にあるカルデラ湖である。エヴァにおいては、第3新東京市の南部に位置する湖であり、使徒の侵攻路としても登場している。とくに第伍話において、第5使徒ラミエルが（芦ノ湖南部から）第3新東京市に向かって接近してくるシーンなどは非常に印象的である。

北部より望む芦ノ湖。湖岸は都市開発されているが、湖や山の基本的な形は、現実の風景とほぼ同じである。

第壱話より、芦ノ湖の周辺道路を走るミサトのアルピーヌ。左前方には芦ノ湖と第3新東京市が見える。

第5使徒ラミエルは第3新東京市上空に停滞。芦ノ湖を挟んで陸12式自走臼砲での攻撃やヤシマ作戦が行われた。

芦ノ湖とその北部に広がる仙石原。第3新東京市はこの仙石原付近に建造される。

LOCATION COLUMN

仙石原 SENGOKUHARA

設定上、芦ノ湖の北部に位置する第3新東京市は、現在の仙石原高原一帯に建造されたこととなる。仙石原は芦ノ湖同様に箱根連山のカルデラにあり、この点ではすでに天然の要塞とも言える。ちなみに仙石原は大涌谷の展望スペース、または桃源台～姥子間のロープウェイから一望できる。

第3新東京市は、ゼーレの調査隊によって発見された巨大地下空洞の上に建造された使徒迎撃用の要塞都市でもある。

巨大地下空洞内には、NERV本部があり、EVA各機が格納。さらに深層部にはアダム（リリス）を有する。

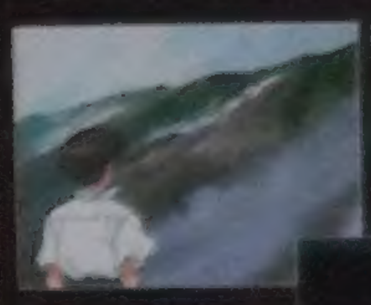
シャムシエル戦でトウジやケンスケが助けられた場所を思わせる。

硫黄の匂いが立ち込める大涌谷。使徒の進路だけでなくシンジの修羅場所でもある。

LOCATION COLUMN

大涌谷・二子山 OOWAKU VALLEY / Mt.FUTAGO

箱根山にある大涌谷と二子山は、エヴァのロケーションを語るうえで外せない地区と言える。大涌谷は第16使徒アルミサエルが滞空した地点であり、第4使徒シャムシエル戦後に家出したシンジが立ち寄った場所でもある。また、二子山山頂はヤシマ作戦において、初号機がラミエルを狙撃した地点でもあるのだ。



第四話、ミサトのマンションを家出したシンジは、箱根周辺をさまよった。その際、大涌谷にも立ち寄っている。

ヤシマ作戦において、初号機がラミエルに向けてポジトロンスナイパーライフルを放ったのは二子山の山頂である。

大涌谷より望む二子山。ヤシマ作戦における狙撃場所となった。

LOCATION COLUMN

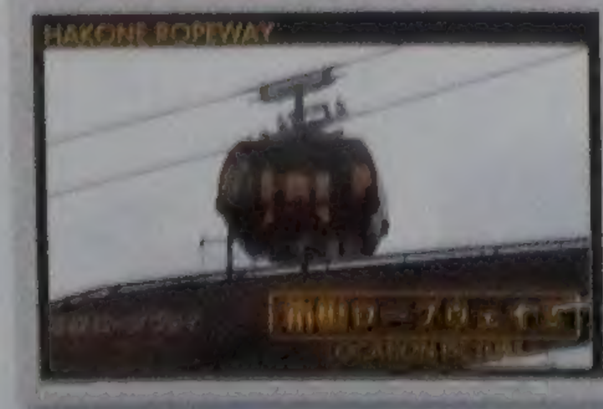
箱根ロープウェイ HAKONE ROPEWAY

劇中では随所にロープウェイのシーンが見られ、第拾話で加持が乗り込んだほか、第参話ではゴンドラを機銃砲台へ換装しての運用もあった。エヴァ放送当時、早雲山～大涌谷、大涌谷～桃源台と別れて運行されていたロープウェイだが、2007年6月に早雲山～桃源台の1ラインに統合された。

加持が乗っていたロープウェイは、旧型のゴンドラ。2007年現在、運行されているリニューアル版のゴンドラとは異なる。

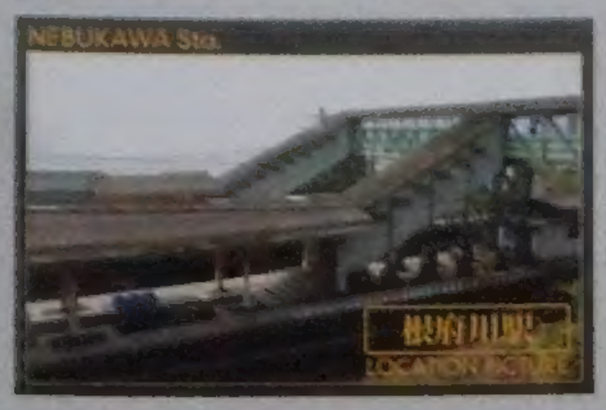
シャムシエル戦において、使徒迎撃用の機関砲台として使用された。ただし、攻撃力は低く、使徒には防衛線を突破されている。

劇中で加持がエージェントとの接触に利用したロープウェイ。

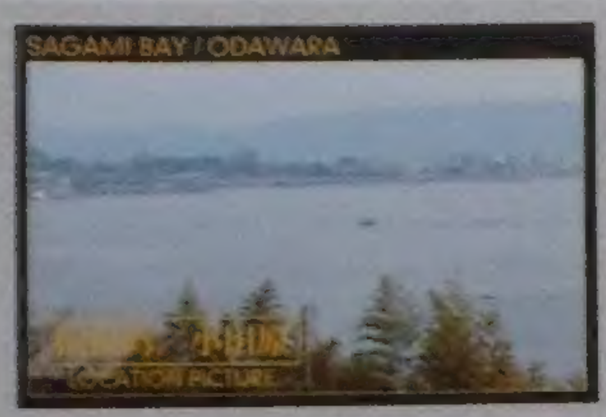


ロープウェイの桃源台駅は2005年にリニューアルされている。

©GAINAX・カラー/Project Eva ©GAINAX・カラー・TVA制作委員会



シンジのクラスの担任がかつて住んでいたという根府川の駅。



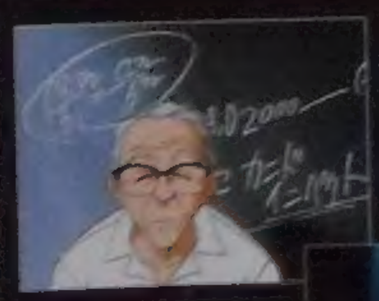
第3使徒サキエルが上陸してきたのは、水没した小田原である。

エヴァの舞台となった箱根周辺の地図。設定では、第3新東京市は芦ノ湖北部にある。また、相模湾沿岸はセカンドインパクトによって水没したため、現在とは地形が異なっている。

LOCATION COLUMN

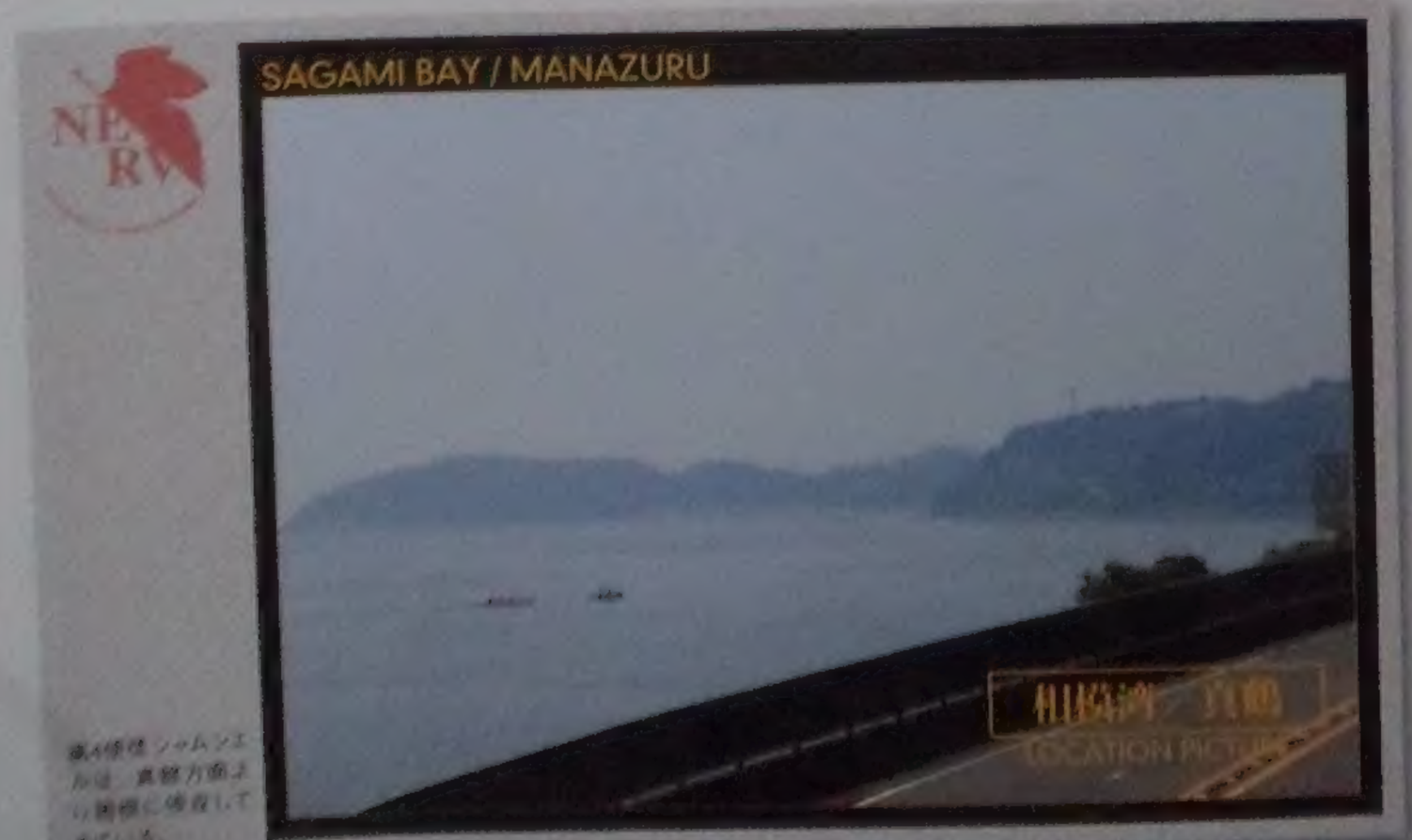
根府川／小田原 NEBUKAWA/ODAWARA

箱根東部に位置する根府川、小田原などの相模湾沿岸の地区は、セカンドインパクトを原因とする海面上昇により、ほぼ水没している。この辺りは海上から侵攻してくる使徒の出現ポイントとなっており、第壱話冒頭で第3使徒サキエルが水中移動していたビル群は小田原周辺のものである。



シンジやアスカのクラスの担任教師は、かつて根府川周辺に住んでいたらしい。ちなみに根府川駅はJR東海道本線の駅である。

15年振りに出現した使徒であるサキエルは、水没した旧小田原市内のビル群を抜けて第3新東京市に向けて侵攻した。



第4使徒シャムシエルは、真鶴方面より侵攻してきていた。

LOCATION COLUMN

真鶴 MANAZURU

第4使徒シャムシエルが出現した真鶴も相模湾沿いにあり、エヴァにおいては小田原同様に水没した地区となっている。ただし、真鶴半島の突端のみは、水没をまぬがれており、岬として残っているようだ。また、真鶴道路も水没しておらず、相模湾方面から出現する使徒の防衛線になっていた。

第4使徒シャムシエルは真鶴方面から第3新東京市へと侵攻。真鶴もまた水没しており、シャムシエルは海上を飛行しながら出現した。

根府川～湯河原間を走る真鶴道路は、相模湾方面から侵攻してくる使徒に対し、国道軍が防衛ラインを敷くのに利用されていた。

駅前タクシー乗り場。"お願い"の看板は、劇中でも登場している。

トウジとケンスケがシンジを見送ったタクシー乗り場付近のロッカー前。

箱根湯本駅前のロータリー。シャムシエル戦後、NERVを去ろうとするシンジが訪れた駅のモデルである。

LOCATION COLUMN
箱根湯本駅＃01 HAKONEYUMOTO Sta.

第四話のラスト、シンジは初号機のパイロットを降りてNERVから去ろうとするが、そのとき、トウジやケンスケが見送りに来た新箱根湯本駅のモデルは箱根湯本駅である。劇中における駅の外観、ロータリーなどは、ほぼ実際の箱根湯本駅と同じなので、もっとも現実とリンクしている場所と言える。

NERVの登録を抹消されたシンジは、国連軍の車で新箱根湯本駅へ。ちなみに登山列車はリニア化されている。

シンジを見送りに来たトウジとケンスケ。この場所は、駅前のロッカー設置付近であり、タクシー乗り場でもある。

ロータリー沿いの登山列車。劇中では、リニアレールが敷かれている。

ミサトとシンジが再会する第四話ラストシーンの駅ホーム。

箱根湯本～強羅間を走る登山列車。劇中でも強羅まで運行している。

箱根湯本駅のホーム。右に見えるのが国道1号線である。

LOCATION COLUMN
箱根湯本駅＃02 HAKONEYUMOTO Sta.

作中では小田急リニア式ロマンスカーが新厚木～新箱根湯本間で運行されている。また、登山列車はまだ残っているようで、強羅方面に向けてのリニアレールも確認できる。ちなみに劇中のリニア式ロマンスカーは、7700系と表記されているが、その形状はモデルとなるロマンスカーの10000形（HISE）に近い。

NERVを去るシンジは、新箱根湯本駅のホームでひとり列車を待つ。リニアレールこそ敷かれているが、ホーム自体はほぼ現代的な様相が残る。

到ホームに入ってきた小田急リニア式ロマンスカー。車両は赤を基調とした伝統的なカラーリングを踏襲している。

小田急ロマンスカー。劇中ではリニア式ロマンスカーとして新厚木～新箱根湯本間を運行している。

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA制作委員会